

市民の財産なぜ売り飛ばす？

「海遊館」民営化に疑問・不満・憤り

市民の財産をなぜ売り飛ばすのか。大阪市議会は八月、市が保有する海遊館の全株式を近鉄グループホールディングスに売却することを、維新・自民・公明・みらいの賛成多数で承認。これによつて八月一日、同施設は従来の公設民営(第二セクター経営)から完全民営へ移りました。この株式売却は〇七年に近鉄とほぼ合意したものの、翌年の市議会では「市民の貴重な財産には慎重な議論が必要」と反発され、否決されたもの。それを一一年就任の橋下市長が「外郭団体の見直し」を掲げて再提出。一転、可決されたのです。この間、**「変心」**した政党や議員からの説明はありませんでした。こうした結果や経過に市市民の間では疑問・不満・憤りが渦巻いています。

「教育的役割大きい施設」「営利追求が心配」「賛成議員は何考えてる」

この海遊館だけでなく、港区では市商商業高

センター、子ども子育てプラザなど、これまで区

革の中で一方的に「廃止・売却」を決められて

校、オーク200、老人福祉センター、区民セ

民に親しまれてきた施設が、橋下市長の「市政改

います。そして海遊館の場合と同じく、港区選

出の議員からは何の説明もありません。

これらの施設はいわば市区民の財産です。その度重なる売り飛ばしに、本紙にも、心ある市区民から「財政難とはいえ、なぜ簡単に民間への売り払いが通るのか」「財政難や効率化を理由にするなら、無駄な支出はほかになのか」「そもそも市民財産を守ることを託されたはずの議員は一体何を考えているのか」等々、疑問・不満・憤りの声が繰り返し寄せられてきました。

そこで今月は、既に決定されたとはいえ、市政・区政を考える上で重要な材料を提供してくれたこの海遊館問題を考えてみましょう。

◆「三セク成功の代表例」海遊館

海遊館は天保山のウォーターフロント再開発プロジェクト「天保山ハーバービレッジ」の中核施設として一九九〇年七月に開業。施設の保有・運営は、大阪市を筆頭株主とする第二セクタ―「株式会社海遊館」が、隣接する商業施設「天保山マーケットプレイス」や「天保山大観覧車」と共に受け持ちました。

設備面では、シンベエザメが遊泳する「太平洋水槽」など十数の巨天水槽を自玉に、水生生物以

←大阪市所有の全株式の近鉄グループホールディングスへの売却によって八月から完全な民間所有・民間運営に移った海遊館



外の飼育・栽培にも注力。九三年には日本初のツメバグリ繁殖で日本動物園水族館協会から「繁殖賞」を受賞。また「日本の森」水槽には約二〇〇

種類の植物を展示。こうした高度で充実した展示に家族連れなどが繰り返し来館、学校見学も多く、入館者の六割がリピーターとされ、開業から十八年目の〇八年一月には入館者数が国内水族館としては最速で五十万人に達しました。こうして同館は規模・設備・入館者数などで日本はもとより世界でも屈指の水族館として定着結果、㈱海遊館は黒字経営（一四年三上期売上高六五億円、経常利益一四億円）を続け、「第二セクター成功の代表例」とされてきました。

◆「三セクの目的果たした」が理由とは

ところがその筆頭株主（五分保有）の大阪市が今回、その全株式二万株を、第一位の近鉄に二十四億八千万円で売却。その理由として橋下市長が挙げたのが「民ができることは民へ」「海遊館は港湾局の仕事ではない」「三セクの目的は果たした」でした。そしてこれに「理解」を示したのが共産党以外の各党（維新・自民・公明・みらい）で、特に維新以外はこれまで反対していたにもかかわらず、一転して売却を認めたのです。

が、そもそも三セクによる運営自体、独立採算による利潤追求や経営効率化の必要からくる

人員削減や非正規化やサービス低下など、市民利益第一の公共施設なら本来あり得ない様々な矛盾・弊害が従来から問題になってきましたが、その上に今回のように完全な民間所有・民間運営となれば、それがどれほど良心的な企業であれ、企業である限り、利潤追求を第一に運営せざるを得ず、短期的にはともかく、長期的に見れば、本来の市民利益からの逸脱が避けられないことは火を見るより明らかです。従ってこの際、近鉄がどんな企業であり、どんな思惑で交渉に応じたかはほとんど問題ではありません（ただ同グループは、自らが運営する志摩マリンランドなど他の水族館やあべのハルカスとの相乗効果だけでなく、同グループが関わるカジノ構想の進展や市営地下鉄の民間売却をも期待して株買い取りに意図したとされています）。

◆ 水族館の社会的役割のない売却

この点で、全国で六〇を超える水族館の約半数が、地方自治体などの関与による公共施設として運営されていることは教訓的です。つまり、水族館のような学術的価値を持つ施設は、単に憩いの場や集客施設としての役割のほかに、社

←海遊館はこれまで第三セクター経営ながら、大阪市の関与によって、家族連れなどの憩いの場、児童らへの教育の場として、社会的役割を充分に果たしてきた



会教育施設としての役割が非常に大きく、民間経営にはなじまないといったことを、全国の事実が図らずも証明しているのです。

実際、海遊館もこれまで、三セク運営とはいえ、その制約の中でも、市が関与する公共的な施設として、市内の小学校から一六〇校が遠足

などで来館し、見学した児童数は二万四一〇〇人にのぼり、子供たちの教育の場として立派に機能してきたのです。そして、こうした役割がこれからも追求されるべきは当然であり、それを売却するために「三セクとしての目的を果たした」などといった外れで理解不能な理由をもっともつてく奪げること自体、「この種の施設の本来の目的を理解していないか、あるいは、理解しながら別の意図を優先させている」として考えられません。

◆ 本党の狙いは「大企業奉仕」

では一体、橋下市長やそれに同調する政党・議員は何を意図して、このような市民財産売り飛ばしに力を合わせるのでしょうか。それは、先の「大阪都構想」騒動でも問題になった、行政を「企業奉仕の道具」とするところを方に根本原因があると思われます。これは「住民利益のための住民との共同事業」といつ行政本来の在り方とは全く質を異にするものであり、その考え方の本家本元はアメリカです。共和党も民主党も巨大企業のための政党という点では五十歩百歩であり、戦後日本の大半の政党はそれを手

本に、またそのアメリカの意に沿う方向でつくられ、運営されてきたのです。自民などはその代表格であり、特に新進の維新は既成政党がやれなかったことをやる先遣隊^{せんせん}としてアメリカの期待も大きく、大阪を実験場よろしく、市営交通や幼稚園や病院の民間売却、さらにカジノ誘致や都構想など露骨な日米財界奉仕の政策を次々とぶち上げてきたのです。

今回の「海遊館完全市民営化」もその一環であり、自・公・民は都構想こそ市民の良識に押されて反対に回ったものの、もともと維新とは同じ穴の^{むじな}貉として大企業奉仕の姿勢は隠し通せず、また安保法制や選挙区問題など中央政局に起因する裏取引もあって、むしろ当然のように賛成に回った、というのが本当ではないでしょうか。

◆市民の意思で政党・議員を動かそう

「さっさと見ていると、市会と党である大阪維新の会をはじめとする大半の政党に、市民本位の政策を期待するのはほとんど無理なことが分かります。ならば私たち市民は一体何を求め、何に頼ればよいのでしょうか。その答えは、先の「都構想」「住民投票で私たちがとった姿勢と行動に

「海遊館は世界有数の設備と入館者数を誇る水族館として大阪市民の誇りとなってきたが、橋下市長と市会多数によって民間へ売却。この結末は市政への重要な教訓をもたらした



あるように思われます。

巨額の市費を投じた連日の橋下説明会やテレビCMなど圧倒的に不利な状況を覆して「否決」をもたらしたのは、「大阪市はどつなんや」という市政へのかつてない強烈な関心、「大阪市をアメリカや大企業に乗っ取られてたまるか」と

いう市民としての良識と健全な直感、そして背に腹は代えられん」「小異を捨てて大同につく」という党派を越えた未曽有の結束でした。この姿勢と行動をあらゆる問題に貫き、その力で「市民の代表」である政党や議員を突き上げる。この一見絶望的にも見える市政の悪しき流れを止め、さらに市民本位の流れへと転換させる力があるのではないのでしょうか。

政党とは、議員とは、頼るものではなく、市民が、国民が、その意思と力で動かすもの。「海遊館一民営化」という負の結末から学ぶべき最大の教訓がここにあるように思われます。

とにかく得電ねん!

LED照明に 換えてみませんか!

コスト減 + 環境貢献
(電気代カット・驚異の長寿命) (CO2を削減・有害物質ゼロ)

- 割れない、熱くない、すぐ点くなどのメリットも
- 店舗、工場、オフィス、家庭、屋外、公共施設に
- 場所や用途に応じてタイプ色々、取り替えも簡単

中小企業で世界初の全小屋LED化<見学歓迎>

前田機械(株) LED事業部
(LED照明・企画販売)
市岡元町2-3-28 ☎6582-5010
<http://www.maedamachine.com>

あさやけ

享年五十七。長寿社会に生きる今の感覚から

すれば「大折」とさえ思える死でした▼「ふとん館ひらのや」店主にして繁栄米商店街振興組合副理事長だった近藤洋史さん。入院から復帰して抗癌剤による通院治療を続けていた昨年、新装なった店頭に立ち、経営への意欲に加えて、夜店や豆まきや寄席など、商店街や地域の取り組みを熱く語っておられた姿が今も胸に焼き付いています▼一昨年には港区で初めてこの本の物々交換、名付けて「韋駄天さんのわらしべ文庫」をオープン。持ち寄ったり持ち帰ったりが誰でも自由にできるという、市民の良識に大らかな信頼を置いたやり方が人気を呼び、保管冊数は増加の一途。今も同店前を賑やかに飾っています▼二〇〇七年から七年続いた「韋駄天商店街」や、二〇一〇年から五年続いた「うちそつマラソン」も、近藤さんの熱意なくしてはあり得ない、港区ならではのイベントでした。アーケード下を主力で駆け抜けた子供たちの爽や

かな顔、御馳走をばおはりながら走るランナーたちの和やかな表情。準備や運営に汗を流し、そんな光景に目を細めながら、「スポーツを通じて地域が元気になる」、商店街にも目を向けてもらえたら「二二年十月」、「人の繋がりや地域の賑わいを作る」ことが第一。その上で経済効果があればなお良い「二四年十月」と語っていた近藤さん。その頭と心には絶えず、商店街や地域を何としても活性化させたいとの願いが駆け巡っていたように▼振り返れば歴史上の偉人のかなりは驚くほどの早逝。明治維新の志士を育てつつ刑死した吉田松陰（一八三〇・一八五九）や、その遺志を継ぎつつ病魔に倒れた高杉晋作（一八三九・一八六七）、大戦前夜に反戦を貫きつつ虐殺された小林多喜二（一九〇三・一九三三）などは、未だ三十に満たぬ生を国のために捧げて悔いる所ありませんでした▼その松陰曰く。「われ行年三十、「事成る」ともなくして死して、禾稼稲の未だ秀でず実らざるに似たれば、惜むべきに似たり。しかれども義卿（松陰自身）の身を以て言えは是また秀実の時なり。何ぞ必ずしも哀まん。何となれ

ば人壽は定りなし。…十歳にして死する者は十歳中、自ら四時（四季）あり。…五十百は自ら五十百の四時あり」（留魂録）。要するに人生の価値は時間の長短ではなくその中身で決まる、早死を悲しむべきではないということ▼また晋作は「面白きこともなき世を面白くすものは心なりけり」（辞世の句。下の句は野村望東尼）、多喜二は「闇から出てきた人こそ、一番本心に光の有難さが分かるんだ」（書簡集）との言葉を遺っています▼生前の姿から察するに、展望を持ち辛い商店街や地域の未来を自らの思いと行動で面白く描き上げ、入院生活の闇を抜けた時期は通常生活の光の有り難さを人一番感じ、さらには死に至る再びの苦しみの床においても、生前の八面八臂の日々を振り返りつつ明るさを失わなかったであろう洋史さん▼最後に聖書から次の言葉を贈り、追悼とします。「一粒の麦、もし地に落ちて死なずば、ただ一粒にてあらん。もし死なば、豊かに実を結ぶべし」（三ハネ福音書）。二〇一五年七月五日下午四時〇〇分、通常の何倍も生きた一粒の麦から、港区の空へ新芽が頭を擡げました。

二度と戦争許すまい！

四年ぶり「港戦争展」に反響



→「戦後七十年の今こそ戦争の真実を次世代へ」と平和への思いが溢れた「港区私たちと戦争展」＝七月二十六日、港区民センター＝

「戦後七十年、再び戦争の危機に瀕している
今こそ、身近な歴史を掘り起こし、戦争の真実
を次の世代へ語り継ぐ」と七月二十五、二十六日に港区民センターで「港区私たちと戦争展」が開催され、二日間で約四百人が来場しました。
実行委員会主催で四年ぶりの三十一回目。

◆戦争法案反対の思い強く

同展は例年、豊富な地区資料と丁寧な手づくり展示が好評で、今年も準備期間を通じて区民から寄せられた新たな写真・資料を加えてさらに充実した内容になっていましたが、特に今回は、安倍内閣の戦争法案提出と、それに対する国民の空前の反対運動を受けて、「二度と戦争を許すまい！」との主催者の思いがこれまで以上に強く押し出されました。

◆軍国化の過程たどる

展示のうち「国防婦人会」コーナーでは、昭和七年に港区の市国第五小学校で発会した大阪国防婦人会が、瞬間に全国的な組織へと膨れ上がったといった過程が、写真や実物（国防婦人会の標など）で明らかにされていました。

「軍港」コーナーでは、満洲事変（昭和八年

「日中戦争の中で港区が一大出征基地へ変貌していく過程を写真や遺品でたどった展示



盧溝橋事件（同十一年）を機に、大阪港が商業港から急速に一大出征基地へ、地場産業の金属機械産業が軍需産業へと変貌していく様子を写真や統計で辿り、大戦末期に壊滅的被害を受けた歴史と併せて、いま国会で問題になっている「後方支援」とは安全どころか危険な「兵站基地」そのものであることを強調していました。

「軍国化」コーナーでは、国家総動員運動（昭和十一年）による隣組、統制経済などを通じて国民生活が隅々まで軍国化されていく様子を写真や生活用品（水筒、鉄兜、出征兵士への寄せ書き、千人針など）で再現していました。

◆被災状況をリアルに

そかい

「疎開」コーナーでは、当時の教科書や通信

簿、献立表や絵や作文などで、香川県へ疎開し

た三先国民学校や南寿国民学校の子供たちの暮らしぶりや心の内を振り返っていました。

「防空」コーナーでは、赤ん坊を負ったままバケツリレーなどの消火訓練に参加する女性たちの写真や、消火用バケツなどの実物を展示し、当時の切迫した雰囲気伝えていました。

「空襲」コーナーでは、一度の空襲で壊滅した港区の様子を、被害写真や体験者自身の絵や手記で伝えていました。中でも、火の海とな

ちよみち

った千代見町(今の弁天五丁目辺り)を、赤ちゃんを負い、二人の子を両手に逃げ惑う母親を描



→学童疎開の様子を再現した絵や写真①と、港

区での反戦や抵抗の歴史をつづった資料②

いた絵には、誰もが息をのんでいた。

「焼け跡」コーナーでは、遥か生駒山まで見

渡せた焼け野原の様子を多くの写真で伝え、「人口三十二万を数えた港区は…終戦時の区人口八六七二という、まさに往年の隆盛を知る者には涙なき能わざる状態であった」「港区誌との記述でその壊滅的状况を強調していました。」

◆ 沖縄・原爆・抵抗にも注目

「沖縄」コーナーでは、地形が変わるほどの米軍の艦砲射撃(鉄の暴風雨)や、米軍に追い詰められた末のガマ(洞窟)での集団自決など、沖縄戦の悲劇を伝える展示と共に、「普天間基地撤去・辺野古移設反対」運動の高まりを伝える展示にもスペースが割かれていました。

「原爆」コーナーでは、人類史上最悪の残虐行為である原爆投下の実態を、写真や子供の詩などで伝えていました。中でも広島・長崎それぞれで被爆した港区民の被爆地点と被爆年齢を記載した市街図や、「もし広島級原爆が港区に落とされたら」と仮定した被害想像図は、原爆被害が港区民の問題でもあることを示す、主催者が入魂の展示でした。

←港区空襲の悲惨さを伝える絵や写真①と、空襲後の焼け野原の様子を伝える絵や写真②



「抵抗」コーナーでは、戦時下の二岡ビル(現在の又田交差点の角にあつた)で反戦の論陣を張ったジャーナリスト岩間光男や、治安維持法の犠牲となった八幡屋宝町の米屋の息子・森龍実(大阪商大Ⅱ現大阪市大Ⅱの学生だった)の不屈の生きざまなどが紹介され、「港区でも命を懸けて戦争に反対した人がいてはったんや」と驚きと感動を呼んでいました。

◆ 過去帳に実名を記した人々

また展示品の中で最も貴重な資料とされる「港区空襲犠牲者過去帳」は、昭和十三年三月十三日と八月一日の空襲で犠牲となった千八百柱の氏名・享年・住所を記載したもので、

西栄寺（弁天・丁目）の協力で例年出展されてきましたが、今年もこの前で掌を合わせる人たちの姿が見られました。

その他、「俘虜收容所」「核兵器廃絶」「憲法九条」「港区の歴史」「戦後復興」などのコーナー、さらには子供に鶴の折り方を教えたり、色紙に平和への願いを書き込んで大壁画を完成させたりする取り組みにも関心が集まっていました。

◆「核兵器ない世界を」と講演

一日目には原水爆禁止大阪府協議会の小松正明事務局長が講演。「核兵器全面禁止のアピール」署名が六三万余に達したことなど「原水爆禁止世界大会（八月・九日）に向けて力



→原爆投下の残酷性を伝える絵や写真①と、沖縄戦の悲惨さを伝える展示②

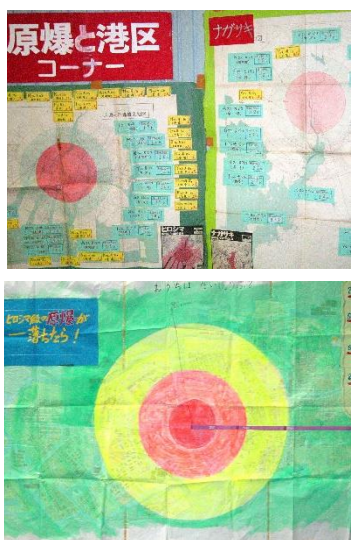
強く進む内外の平和運動の状況を報告し、「被爆七十年を転換点に、核兵器のない平和で公正な世界を、広島・長崎の被爆者を先頭に、みんなの力でつくる」と呼びかけました。

また会場には、自らの空襲体験を漫画タッチの分かりやすい絵で再現した『国民学校一年生の記憶』の著者・矢野博さん（平野区在住）や、出版元の（株）新風書房（天王寺区・福山琢磨代表取締役）も顔を見せ、出版物の展示・販売などを通じて「あの戦争の本当の意味を戦後七十年の今こそ考えよう」「戦争は人災。人間の英知で必ず止められる」と訴えていました。

◆「平和憲法に返って」と若い女性

時間をかけて熱心に鑑賞したあと、色紙に自分の思いを書き、「平和大壁画」の一部として貼ってもらっていた寺田泰子さん（三〇〃西區在住）は「戦後七十年といつてで関心があり、実行委員の人に誘われて参加しました。一回目です。これだけの資料を集め、整理して展示されるのは大変だったと思います。中でも心打たれたのは、戦争体験者自身による文や絵です。貴重な証言としてこれからも長く保存し、次世

→広島・長崎で被爆した港区民の被爆地点と被爆年齢を示した市街地図③と、港区に原爆が落とされたと仮定した被害想像図④



代に伝えてほしいと思いました。今、あの戦争から生まれ、受け入れられてきた平和憲法を無視して、再び戦争を繰り返そうという動きが強まっていますが、周囲の状況が変わっても根本は同じ。原点に立ち返ってほしいと強く思います。集会やデモにも二・三回参加しました。戦争は本当に愚かな行為。犠牲になるのは私たち若い世代。まだ子供はいませんが、生まれてくる子のためにも、今、声を上げなければいけないと思っています」と話していました。

◆「父の話きいておけば」と中年女性
また、やはりじつじつと全ての展示を回って

いた北山美穂さん(八七)＝中央区在住＝は「実行委員会の方に誘われて初めて参加しましたが、資料の膨大さで分かり易い展示にまず感心しました。どの展示もインパクトがありましたね。私は戦後生まれで、戦争につながる記憶と云えば、小さい頃に片足の傷痍軍人がアコギを弾いて物乞いをされていた姿くらいですが、それも『怖い』という印象でしか覚えていません。亡くなった父は大正八年生まれで、海軍から特攻隊に志願し、出撃せず終戦を迎えたため『特攻崩れや』と言っていました。もっと話を聞いておけばよかったと思っています。戦後七十年の今、危うくて腹の立つことが多過ぎます。港区でこうした催しが続いていることは本当に意義があると思います」と話していました。

◆「戦争止めるのも人間」と老夫婦

また、夫婦で体を支え合い、語り合いながら回っていた大城清光さん(八〇)・ヨシ子さん(七七)夫妻＝池島在住＝は「これまで知らなかった港区の昔の姿を一杯知れて良かった。戦争を起すのが人間なら止めるのも人間。今日は若い人がたくさん足を運んでくれたのが心強か

←沖縄の反基地運動の高まりを伝える展示(上)と核兵器廃絶運動を報告した講演の様子(下)



った。が、もっと声を上げるとんでもないことになる。頑張っしてほしい」「私たちは二人とも大正区北恩加島で空襲を受け、火の中を逃げ惑いました。水を求めてさまよう人たちの姿も目に焼き付いています」と話していました。

◆「当時思い出し涙と被爆男性

また、被爆写真や鉄兜などの遺品を一点一点かみしめるように眺めていた市林進さん(八四)＝三先在住＝は「十三歳の時に広島で被爆しました。勤労動員に出るため市電に乗り、停留所で電車を待っていた時でした。閃光と轟音で気を失い、気が付くと辺りは真っ暗。薄明のようになった時、建物という建物がなくなっ

いた地獄のような光景を今も覚えています。強烈な熱で瓦の表面がボコボコになっていました。(展示を見て) 当時を思い出し、涙がこぼれました。いったん戦争になると国民には防衛術がありません。上に立つ人はよほどしっかりして国民をあんな目に遭わせることは絶対にやめてほしいと強く願っています」と話していました。

◆「港区は心の故郷」と元民

また親族の出征写真などを同展に寄贈した尾嶋清篤さん(八四)＝尼崎市＝は、昭和二十一年一月の港区空襲の写真を指しながら「この時のことはよく覚えてる。物凄い火柱が立ってな...」などと来場者に自分の体験を語っていました。戦前の港区に生まれ、北八幡屋町、音羽町や湊屋のひろっぱ(いずれも今は弁天埠頭周辺の安治川の水面)でよく遊んだという尾嶋さんは本紙二〇五～二二三号に戦前の思い出を連載、この戦争展にも必ず参加してきました。「港区は不思議な町。栄えたり消えかけたり、また羽搏いたり...。けれども、ぐれだけ姿は変わっても、港区はやっぱ私の心の故郷。平和な中でいつまでも続いてほしい」と話していました。

核も戦争もない未来を！

みなと通を「非核・平和行進」



→「子どもたちに核のない未来を！」とシュプレヒコールを上げながら灼熱のみなと通を進む「非核・平和行進」参加者。七月二三日午後

「核も戦争もない平和な未来を子どもたちに！」。七月二十三日、梅雨明け後の強い日差しの下、みなと通に力強いシュプレヒコールが響きました。毎夏恒例の「非核・平和行進」の隊列です。参加したのは、港・西・大正・住友・西成・浪速・住吉区の労働者・市民から成る「南大阪平和人権連帯会議」のメンバー約二五〇人。

◆「戦争法案」の廃案を訴え

出発地点の西区・新町西公園では、主催の南大阪平和人権連帯会議・山元一英議長が「福島原発事故収束から程遠いにもかかわらず安倍首相は原発輸出に前向きだ。戦後七十年、日本が大きく変わっている。集団的自衛権行使容認の強行採決に国会前で連日抗議行動が行なわれ、大阪でも二万人集会があった。内閣支持率は三五割を切った。平和な未来のための国民連帯で闘い、廃案に追い込もう」と呼びかけました。

このあと参加団体から連帯の挨拶があり、この中で港合同の玉置事務局長は、平和と福祉を掲げるNPOみなが八月に開催する「大空襲の体験を語る集い」(九月三日)に記事掲載予定への積極的な参加を呼びかけました。

◆「反原発」コールに共感の声援も

集会後、参加者はみなと通を西へ向かい、「原発と原爆は同じだ」「アメリカは日本から出て行け！」などとシュプレヒコールを上げながら約七キロを二時間に亘って歩き通しました。

行進の途中、特に大保山周辺では関心が高く、その中で福島出身らしい人がデモ隊の「反原発コールに「私、福島です！」と熱のこもった共感の声援を返す場面も見られました。

◆「決定的な時期を精一杯闘う」と中村氏

終着地点の大保山公園では港地区平和人権連帯会議・中村吉政議長(港合同委員長)が「戦争法案を廃案にする」とは親の責任、大人の責任だ」と強調。併せて「野党や国民が強行採決に批判の声を上げる中で何もしていない」と橋下氏の反動的な本質を厳しく糾弾しました。

終了後、中村議長は「橋下市政の元で行動が制限される中でも職員が年次有給休暇をとって参加したことは大変意義がある。今この決定的な時期を精一杯闘うことは本当に重要だ」と話し、港合同として八月から「戦争法案阻止」を掲げて街頭宣伝に出ることを明らかにしました。

戦争法案いらん！

「憲法守れ」と区民百人デモ



→「戦争法案反対！」「憲法壊すな！」「勝手に決めるな！」「安倍やめろ！」と訴えた「港総行動」のデモ隊＝七月二十九日夜、みなと通

「戦争法案絶対反対！」「憲法を守れ！」。

七月二十九日、昼の炎暑ひきする宵のみなと通に力強い「コール」が響きました。区内諸団体の集まり「港総行動実行委」の呼びかけで集まった区民約百人による「港総行動」のデモ行進です。

◆ 区民団体が「反対の声高めのよこ」

（この日）

デモに先立ち夕方から入舟公園（八幡屋で開かれた集会では、区民団体代表がそれぞれの立場から戦争政治に警鐘を発しました。法律事務所の青年弁護士は「我々が最初に学ぶ憲法と立憲主義をないがしろにする動きが進んでいる。東京ではシルブなど若者の動きがすごい。この盛り上がりで廃案へ持ち込もう」、女性団体の主婦メンバーは「赤いＴシャツや赤いハガキでアピールしている。ハガキには『平和のためとだまさないで』『殺し殺されるのは嫌』『七十年前の空襲で母と妹が死んだ。戦争は御免』などと書かれている。こうして声で退陣へ追い詰めよう」。日本共産党の青年党員は「国会で議論すればするほど違憲法案であること、戦場には前方も後方もないことがはつきりしてきた。反対の声を七〇八割にして与党議員も賛成できない

←入舟公園の集会では区民団体が「戦争法案廃案と安倍内閣退陣へ追い詰めよう」と訴えた



状況をつくることと呼びかけました。

◆ 大阪弁で「廃案」「退陣」「コール」

集会の後、参加者はみなと通を「七行進。大阪弁のアクセントで独特のリズムを付けて戦争法案 そんないらん！」「戦争したがる首相はやめろ！」「みんなの力で廃案廃案！」などのコールを反復、市国元町公園まで歩きました。妻の車椅子を押していた四十代男性は「戦争法案が許せないと参加しました。他にも労働者派遣法案など腹の立つことは一杯です」。八十年代女性は「孫が大学生なので他人事ではありません。私自身も空襲で縁故疎開し、戦争の悲惨さは身に染みています」と話していました。

叫びたいわ！

こにし まさとし

小西 正敏さん（六三歳 甲中）



所得で負担が変わる 介護保険はおかしい

六月号のこの欄で「介護保険の認定」について問題提起しましたが、その後の経過から、また別の問題を指摘したいと思います。

大阪市から八月八日付で母への「要介護」としての認定結果が通知されました。前回までの認定

期間（三年間）と違って今回は一年間。ケアマネジャーに尋ねると、介護度により有効期間が変わるという。また認定申請から決定まで二カ月以上かかったことは、六月号でも指摘したように、「申請日から三十日以内」という介護保険法の趣旨から逸脱しています。

とはいえ介護度が決まり、とりあえずはホッとしたのですが、その上で六月下旬、今年度の利用サービス計画の打ち合わせをしたところ、担当者から「今年八月から一定以上の所得のある六十五歳以上の人は、サービスを利用した時の負担割合が二割から三割に変更される」とのチフシを受け取り、驚きました。現在の利用者負担は所得に関係なく一割。それが所得や年齢によるとはいえ倍になるのです。まして私たちのように三年後には二人とも六十五歳以上になる家庭では入ったではありません。これでは改正というより「改悪」ではないでしょうか。

これについて国は「団塊の世代がすべて七十五歳以上となる二〇二五年以降にも持続可能な制度にするため」と説明していますが、既に制度が経済的に維持できなくなっている中、「少い

でも取りやすいところから財源を確保しよう」との魂胆が見え隠れしています。

◆税金無駄つかいの中での国民負担増

本来、介護とは所得や年齢に関係なく、国民一人一人の必要に応じて国の責任で提供されるべきもの。それが十五年前、民間サービスに依存する制度に移行したことで、そもそも間違いであったと思いますが、それでも発足以来、一律一割という一応は公平な負担で運用されてきたのです。それが今回、その負担にも不公平が生じるということでは、制度自体がいよいよ破綻してきたと断言せざるを得ません。

ひとたび負担割合が変更されたら、あとはなにより崩壊的に変更されるのは他の制度を見ても明らかです。国民健康保険は赤字というところ三割負担が普通になり、国民年金保険料も年々上がる一方で、受け取る年金額は上がらず、むしろ経済変化で実質下がっているのが現実です。

他に方法がないのならいざ知らず、新国立競技場建設やオスプレイ買入れ、アメリカ国債爆買いなど目に余る税金無駄つかいの中での国民負担増。皆々とはいつ思われますか。

あれこれガイド

●市岡 西明寺「地藏盆」 地藏盆は地藏を囲んで子供の安全・健康を願う子供中心の伝統行事。近畿地方で盛ん。西明寺では、紙芝居、バルーンパフォーマンスゆるキャラパフォーマンス音楽ライブなどのショータイムあり。かき氷、ポップコーン、ミルクせんべい、ジュースなどの屋台や窯焼きピッツアの移動販売、スーパーボールすくいなどの遊びコーナー、最後にお菓子のつかみどりプレゼントも。当日のバザーや賽銭などの収益の一部は社会福祉募金に充て



→ 去年の西明寺「地藏盆」からスーパーボールすくい①とバルーンパフォーマンス②

られる。八月 二十四日(月)午後四時半～六時半に同寺境内で。参加無料。開催中出入り自由。雨天でも実施。西明寺は正式名「紫雲山西明寺」。浄土真宗本願寺派(西本願寺)。「あいさつ」ができる町に「安心して住み続けられる町に」住んで良かったといえる町に「住みたいといわれる町に」を合言葉に地域住民の「拠り所」として様々な事業を展開。市岡 一・一四、六八五七 一・五八一六。

●繁栄韋駄天尊 夜店まつり 商店街と地域の活性化を願い、地域の守り尊である「韋駄天尊」を囲んで行なわれる毎夏の伝統行事の後篇(前篇は八月十三日)。かき氷、たこせんなど懐かしさと目新しさを組み合わせた食べ物店(二百円)や「ジャンボガラガラ」「セサ金魚すくい」など遊び心と工夫を凝らした遊び店(一回百円)が並び、文化イベントも。昼間は繁栄ワイワイ市場後述あり。十月二日(土)午後八時～八時に同商店街アーケード下で。繁栄商店街と地域の人々が共催。同商店街は南市岡二丁目。六八五

八三・〇三六ふとん館ひらのや。

●繁栄ワイワイ市場 商店街に個性豊かな露店

← 前回の夜店まつり①と過去のワイワイ市場②



がズバリ。各地で活動する様々の分野の業者が一堂に会することで業者同士の交流と商店街・地域の活性化をめざす。ネイルアート、唐揚げ、窯焼きピッツア、沖縄物産、手作り小物、マッサージ、保険案内、似顔絵、タロット占い、芸術体験等々。毎月第一土曜の十～十六時、繁栄商店街(南市岡二丁目)で。六八五八三・〇三二六繁栄商店街。

●ワークみなと「東北食品市」 東日本大震災で被災した福島県いわき市の精神障害者作業所が、宮城県産の材料を使用して、昔ながらの製法で作った体にやさしい豆腐・豆乳・青豆

豆腐・ドーナツなどを販売し、復興努力を物心両面で支援。毎月第一・第四火曜十五時半から

(売り切れ次第終了)▽ワークなどは主に精神障害者を対象とした就労継続支援B型の指定障害福祉サービス事業所(夕凧二六三、☎六五七一・七五二一)。

●市岡下水処理場のイベント ①お花見Ⅱ八月二十三日(日)と二十日(日)の午前七時半〜十一時。百日紅の開化に合わせたイベントの二回目。涼しい時間帯に向日葵^{ひまわり}などの花も合わせて観賞できる。撮影写真や絵画作品は後日の一般公開日に展示②一般公開Ⅱ十月二日(土)十

十六時(小雨決行)。汚れた水がよみがえる仕組みを学べる「施設見学」(最終回は十五時半から)をメインに、(1)微生物の顕微鏡観察(2)下水道の



→市岡下水処理場のイベントから「お花見」①と「一般公開」②(いずれも昨年の様子)

歴史を学べるDVD③下水道資源の有効利用④ゲーム⑤わんわんふれあい広場⑥ミニ消防車にのれる(時間限定など)のコーナー。環境に優しい肥料や透水性煉瓦^{れんが}、マタニティ服やベビー服のプレゼント(数量限定も。家族で楽しめる)▽市岡二一五・一五。☎六五七一・三三六三。

●ムチ打ち 省・腰 無料相談会 交通事故でムチ打ちになった被害者を対象とした無料相談会。八月二十三日(日)十〜十八時に行政書士のむら事務所(築港二七・一六〇八)で。一人約一時間。事前予約制(電話かメールで)。

「どうしたら正当な補償が得られるかをアドバイスします」事故後、早めの相談が良い結果につながります(同事務所・野村光恵^{みつえ}さん)。Eメール:info@jikkou110-nomura.com、TEL六五七六・六〇七八、FAX六五七六・六〇七九。

●中学生・海の作文コンクール 海への関心と知識を深めるための毎年実施。テーマは海・船・港・川・湖など広く海に関わる自然や仕事や体験などについて感じたり考えたこと。四千字

詰め原稿用紙五枚以内(題名・学校名・学年・ふり

←「中学生・海の作文コンクール」のイメージ

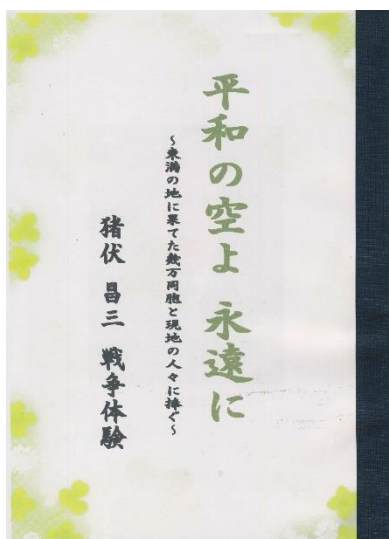


がな付き氏名を明記。一人一点。九月三十日(水)必着。入選(金賞・銀賞・銅賞・佳作)の計四十名発表は十一月下旬。申し込み・問い合わせは主催の公益社団法人近畿海事広報協会(〒52・0021 大阪市港区築港二七・一五港振興ビル204号室、☎六五七三・六三八七、HPはhttp://kinkikai.ji.sakura.ne.jp)へ。

●障害年金もれの心当たりある人は相談を障害者手帳を持つ二十歳以上の人のうち、障害年金を受けられるのに請求手続きをしていない人が相当数(身体障害者では〇・四割)二万人程度にのぼることが厚生労働省の調査で判つ

た（二〇二三年七月）。原因の大半は、「障害者手帳に記載されている等級」と「障害年金の受給要件となる等級」にずれがあること。このため、例えば、実際には二級の障害厚生年金を受けられる程度の身体障害があるにもかかわらず、身体障害者手帳の等級が「四級」であるため「自分は受けられない」と思い込んでいる場合などは、申請しなければ、いつまでたっても支給されないことになる。心当たりのある人は市岡年金事務所（磯路三・一五・一七、☎六五七一・五〇二二）まで。

●戦争体験記『平和の空よ 永遠に』 東満州・えんきうち
延吉で終戦を迎えた十八歳の少年が日本に帰



戦争体験記『平和の空よ 永遠に』

←著者・猪伏昌三さんの少年時代①と近影②



り着へまでの波乱と苦難に満ちた体験を綴った感動の書。戦後七十年に鑑み、次世代に戦争の悲惨さと平和の尊さを語り継がんと、本紙二〇二三年五月～二〇二四年 月に連載の「平和のため戦争体験語り継ぐ」に加筆し、資料を添えて入魂の冊子化。希望者には三百円（送料税込）で頒布。詳細は筆者・猪伏昌三さん（〒253 1-0074 大阪府北区本庄東一-四-一-二二三、TEL・FAX〇六-七五〇八-一一七七、Eメールmk5@w2.dion.ne.jp）へ。著者はもと港区田中の住民。

●石綿（アスベスト）パンフ 肺がん、中皮腫などの病気や、息切れ、胸の苦しさなどの症状や、それらによる死に「アスベスト（石綿）によるものだ」と認められたら、色々な給付を受けることができる。このパンフレットは、そんな

人たちが家族のために、①石綿による病気にはどんなものがあるか②石綿による病気で分かった場合の補償や救済の制度にはどんなものがあるか③その場合どこへ問い合わせたらよいかなどを厚生労働省と環境省と独立行政法人環境再生保全機構（ERCA）がまとめたもの。タイトルは『その病気、その症状は石綿（アスベスト）が原因かもしれません』。「コンパクトで分かりやすい」（区内六十代男性）と好評。港区暮らすか働いている人なら港区役所（市岡一・一五・一五）三階の港区保健福祉センターのチラシスタンドに設置してあるものを無料でもらえる。

その病気、その症状は
アスベスト
石綿が原因
かもしれません

ご家族に、**肺がん**や**中皮腫**などで亡くなられた方はいませんか？

息切れ、胸が苦しいなどの症状が出ていませんか？

石綿による疾病と認定された場合、各種給付を受けることができます。

◆お心当たりのある方は、以下の機関にご相談ください。

- お近くの労働基準監督署または都道府県労働局
- 独立行政法人 環境再生保全機構（ERCA）

厚生労働省 環境省 独立行政法人 環境再生保全機構

港区役所三階でもらえる石綿・パンフ

みなとサロン

心痛むこの国の現状

池島・勝部 泰臣 八十二歳

貴紙10月1日「あさやけ」(八頁のコラム)が指摘した「安倍演説」。あのコラムを読んで考えさせられた。このニッポン・新聞よりの射を。気になる欧米の反応は？ 安保法案強行採決

後、英BBC放送は「日本の部隊、戦後初めて海外での戦いを準備」、米N.Y.タイムズ紙の見出しは「日本、七十年間で初めて軍隊の戦闘容認へ動く」だったものだ(10月14日付M新聞「憂楽帳」より)。

民放で安倍さんは分かり易く説明されたそうだが、ピンと来た人が何パーセントいたのか。

私には「米国の兵士の任務や軍事支出を日本が肩代わりしてゐるから賛成」とN.Y.タイムズ紙に寄せた米国民の声が何より具体的に分かり易い。分かり易いだけに「おいおい、自・公の購買さんよ。あんたらが起立して通した法案、

こんなことになるんだぜ」と怒鳴りたくなる。

「世界の警察」を自認していた頃の勢いはないとはこのものの、年々どこかでドンパチやっている彼らの人々、日本の軍国主義復活が心配という人は少ないようだ。

中国、韓国はもとより東南アジア各国が、戦後七十年という節目に日本から発する首相談話に、過去のどの年よりも注目し関心を持っていることは間違いない。

日本人として普通の心を持った人ならば「あさやけ」コラムで訴えている「平家の悲劇が平成の悲劇とならぬことを祈つてやみません」に同じ思いとなる。

国会の論戦がなぜか虚しく聞こえ、こんな選良を選んだ私たち有権者の責任もあり、心が痛むこの国の現状、どうしたものだろう。

.....

区画整理の負の歴史も検証を

(市国元町・七十年代 元公務員)

「港区の歴史をふまえた論議を」、「区画整理記念事業」内容の検討が始まる」と題した7月10日のトップ記事を読んで。何よりも「水害に強い

港区の土台を造った歴史を次世代へ継承する」といつこの事業の趣旨に沿った方向で検討を進めてほしいという主張に共感を覚えました。

私たち夫婦は港区に移って十数年で、港区の区画整理事業の実際は知りませんが、貴紙のこれまでの記事によつてその歴史は学んでいましたので、それを記念する事業がいよいよ具体的検討の段階に入ったことをまず喜ばしいことと受け止めます。その上で、貴紙が最後に「今後のため」施設の中身を少しでも区民本位に改善するため」として挙げられている「歴史」「内容」「費用」「運営」「交通」「関連施設」などの論点が、今後のワーキングメンバーと区役所による検討の中で深められればなお良いと思います。これらの論点には、貴紙自ら断わられているように「過ぎたこと」や「ほぼ決まったこと」も含まれているため、実際に議題として持ち出すのは憚られるかもしれませんが、勇気をもって提起する値打ちはあると思います。

その中で私が特に取り上げてほしいと思ったのは「歴史」の項で、区画整理事業の否定的側面(自動車社会のために水運や景観を犠牲にし

た運河の埋め立て、防災のために自然との連続性や景観を犠牲にした尻無川・安治川の護岸構築、土地の交換・分合や建物移転の過程で生じた利害調整の不公平など）も検証してその功罪を明らかにし、記念事業（特に歴史展示）に反映させるべきではないかという点です。なぜなら、どんな事業にも白点満点はなく、良かった点と共にはずかった点も振り返り、記録・整理しておくことで、今後、新たな都市計画を考える際にもそれらが生かせるからです。単に「どんな中身の建物にするか」だけに留まらず、こうした深い論議を重ねてこそ、表題にある「港区の歴史をふまえた」記念事業になるのではないかと感じています。

区画整理記念事業、環境もきかして

（磯路・陸地 昭子）
（かげち ともこ）

「港区の歴史をふまえた論議をー」『区画整理

記念事業』内容の検討が始まる（10月11頁）を読んで。区画整理の歴史や、記念事業の骨格や、それが決まるまでの経過が詳しく説明され、よく理解できそうだ。色々問題はあっても、事業

計画が前に進むのは良いことだと思います。

その上で私が気になるのは、建設される記念会館と拠点病院の位置が四三宮線のすぐそばという点です。ものすごい量の車、猛烈な排ガス、空気の悪さは、特に病院が建つにふさわしいとは思えません。また中央大通や弁天駅前交差点は、オートバイが何台も轟音を立てながら深夜に走ることがよくあるなど、会館や病院を利用する際のアクセスや交通安全の面でも大変心配です。

記念事業の内容がこれから区役所とフーキンメンバーの間で検討されるということですが、その際に、このような環境問題もぜひ議論し、しっかり対策を立て、区民みんなに言はれる施設になってほしいと願っています。

「行政とは何か」問った小西提言

（三光・六十代 商店主）

これも「世とどういふもー」を最初に読みます。10月11の「ふなやと寄附金で市の文化は守れるか」という小西正敏さんの提言（9頁）は、「ふなやと寄附金」に便乗しつつ安易な方法で

文化振興を^{まかな}賄おうとする大阪市の姿勢を厳しく糾弾しているところに共感を覚えました。

たしかに、全国的に実施されている「ふなやと寄附金」を利用し、それを文化・芸術団体へ回すというやり方は一つのアイデアとして悪くありません。正直、私も最初は「ええんちがう」と思っていました。しかし、これまで実施されていた補助金を全廃してそれに代えようというところに大阪市のせよさがあるという小西さんの指摘に「なるほど」とその鋭い視点に感心した次第です。

この文化・芸術分野に限らず、福祉や教育や交通など他の分野でも、大阪市は「効率化」「民間活力」を掲げ、削るべき無駄を削らず、このやり方と同様のお手軽な方法で、行政として果たすべき仕事から次々と手を引いていくと思います。それだけに、こうした「見ええな」と思われる施策に絶えず目を光らせる小西さんのような存在がどうしても必要です。そして、大阪市の厳しい財政事情は分かるものの、行政として無駄な支出を抑え、使つべき所にしっかりと税金を使つてほしいと改めて思いました。

「行政とは何か」という根本的な問題に目を向けさせてくれた提言に心から感謝しています。

戦後七十年、米国の犯罪性こそ

(大正区・六十代 男性)

終戦記念日が近づくとつれて「戦後七十年」が大きな話題になっていますが、私は、あの戦争は、日本がアジアを侵略した戦争であると同時に、日本がアメリカから侵略された戦争でもあると思っています。戦後、アメリカはまるで平和の使者のような顔をしています。あの戦争で一番得をした(経済的にも政治的にも軍事的にも)のはアメリカです。つまりアメリカこそがあの戦争を一番欲していたのではないのでしょうか。戦後七十年というなら、日本の悪かさや侵略性だけでなく、このアメリカの計画的な犯罪性や残虐性をこそ、いの一審に問題にしなければ、片手落ちでしょうか、根本的に誤った歴史総括になると思っています。特異な考え方もありませんが、読者の方々の参考に資するため、一筆入れさせて頂きました。

「あさやけ」に溜飲、真の独立を

(波除・六十代 無職)

長老の諫めをきかない自民党の驕りや、安倍首相の英語演説に、戦後日本の対米属国ぶりが表われていると指摘した青紙コラム「あさやけ」

(七月号八頁)に溜飲を下げました。特に一九五一年のサンフランシスコ講和会議での日本代表の情けない扱われ方(演説原稿を稀閲・修正された、講和条約の日本語正文は作られなかった、安保条約の日本語訳が作られたのは調印二時間前だったなど)はこのコラムで初めて知りましたが、実に屈辱的で、高校時代に剣道



→読者の絵手紙。上は辻悦子さん(市岡元町)から、下は尾崎妃努子さん(池島)から

をやった人間としても許せません(関係ないか)。救いは、そんな中でも日本の成人は数学的思考力・読み書き能力・問題解決能力のどれもが世界一だったこと(これも初めて知りました。「戦後七十年」がやかましく言われていますが、(二)という日本人本来の勤勉さと能力を生かして本当の独立を成し遂げる方向で歴史論議がなされることこそが大切だと思います。

戦争は絶対悪、高橋提言に共感

(住之江区・六十代 労働者)

ネットでときどき読んでいます。七月号では高橋健治さんの「加害と被害直視した平和運動を今こそ!」(十頁)に目が留まりました。南京虐殺を取り上げた映画の話がドラマチックで大変読み応えがありました。虐殺の実相については、私はよく分かりませんが、いずれにしても、戦争というのは加害と被害の両面を持っており、絶対悪という観点で平和運動を進めなければいけないという主張には、心からの共感を覚えました。

高橋さんたちが毎年取り組まれている「大空

襲の体験を語る集い」の成功を心から祈っています。

戦争政治に警鐘ならした松浦さん

（此化区・七十年代 自由業）

ネットで愛読しています。七月号では「戦争政治に警鐘 アンソンの没後七十年 歌と朗読で松浦田美子さん」の十八頁に読み入りました。社会性も備えた質の高い文化記事という印象です。演じられた松浦さんたちの平和への強い気持ちや紙面からびびりと伝わってきました。

特に『茶色の朝』というフランスの寓話から「国民の無関心がファシズムを導き入れる」といつ苦い教訓を引き出した朗読劇は、戦後七十年の日本にびつたりの内容で、戦争体験者（大陸からの引き揚げ者）としては、松浦さんの事情を許せば、ぜひ他の地域でも演じ、警鐘を広げていくのではないと思った次第です。

ロシアの黒船騒動が手に取るように

（市岡・四十年代 会社員）

「みっちゃちゃんの港区ななはな歴史ガイド」

シアの黒船騒動 その二（七月号三十一頁）を読んで、いきなりやって来たロシア人とジェスチャーで交渉したり、怖いもの見たさに港へ押し寄せて捕まったり、といった出来事が手に取るように語られ、メチャ面白かったです。といっても、防衛フインは官民・海陸あげた大規模なものだったといつことですから、当時の人たちは、役人も町民も真剣そのものだったと思います。十五日後によつやく錨（いかり）を上げてくれた時には、本当にホッとしたことでしょう。性別不明の「みっちゃん」による、NHK『タイムスクープ』ばりの素晴らしい実況中継に、期待するところますます大です。

子供に聞かせた小川さん疎開体験

（八幡屋・四十年代 一児の母）

小川宏さんの「平和のための戦争体験語り継ぐ」二（八月号）から連載を読んで。活気ある長屋での患まれた暮らしが、戦争でだんだん厳しくなり、こつこつ集団疎開といつ初めての経験を経た様子が語られています。家が恋しくて女の子も男の子も泣いたといつ、ひもこつて栄養剤

をポリポリ齧（かじ）ったことなど、今の子供では考えられない体験をされています。直接戦地へ行かれた訳ではありませんが、これも立派な戦争体験として、子供たちに聞かせてやりました。

こつた体験も年を追って段々聞かれなくなります。語り部を探すのは大変でしょうが、ぜひこの欄だけは続けてほしいと願っています。

懐かしい表紙写真に見入った

（浜崎・六十年代 自由業）

表紙の写真（七月号）に見入りました。港区の今日を造った区画整理事業の風景がくつきりと見えて、港区育ちとしては、大変懐かしい気持ちになりました。地上げの様子はもちろん、市電や荷車、赤ポストなど、今では見られない物が一杯写っています。いい写真を載せられたと感心しています。

区画整理の記念会館の内容をいつするかの話合いが始まるといついのですが、こんな港区の歴史が子供たちにも分かるような、中身のあつまるものではないかと思っています。

大阪港の先人に感謝

西村捨銅像前 厳肅で華やかに献花式



→大阪港発展の礎を築いた西村捨銅三翁に感謝を込めて厳肅かつ華やかに挙行された「西村捨三翁銅像献花式」は七月十五日、天保山公園

大阪港発展の礎を築いた先人に感謝。大阪港開港記念日の七月十五日朝、天保山公園で催された「西村捨銅三翁銅像献花式」には地域住民や港湾関係者、徳平隆之、大阪市港湾局長や田端尚伸・港区長など行政関係者、合わせて約七十人が参列、清祓や吹奏楽演奏も得て厳肅かつ華やかな雰囲気の中で献花が行なわれました。大阪港振興協会(官民一体で大阪港を振興させる活動の核となる公益社団法人。川本清会長主催による恒例行事。

◆築港事業の功績を紹介

梅雨明けを前に港区の花・向日葵が銅像前を彩る中、午前九時半、築港中学校吹奏楽部の演奏(『踊るポンポコリン』『銀河鉄道999』『築港らんらん』)で華やかに開会。

次いで大阪港振興協会の佐古武志さんが「大阪港は慶応四(一八六八)年七月十五日に開港しましたが、当時は安治川を中心とする河川港であったため船舶の大型化に対応することは困難でした。そこで『大阪の繁栄は港から』という市民の熱望により、明治三十二(一八九七)年に近代的な港湾を建設する築港事業に着手するこ

「献花式を華やかに盛り上げた築港中学校吹奏楽部のオープニング演奏(上)と、献花式に厳肅さを加えた港住吉神社の神官による清祓(下)」



とになりました。その初代築港事務所長に迎えられたのが西村捨銅三翁です。この事業により大阪港の骨格が形づくられ、今日の繁栄につながっています。また毎年七月十五日を開港記念日とし、先人の偉大な足跡に敬意を表し、将来の大阪港発展に向け決意を新たにする機会としています」と同翁の功績を簡潔に紹介しました。

この後、港住吉神社の神官が、災厄や穢れを取り除く神事「清祓」を実施。最後に再び築港中吹奏楽部の演奏(『輝ける時』)が爽やかに流れる中、参加者が次々と銅像前に花を捧げました。

◆「意義ある催し」に参加者

参列者の一人、長谷川恵子さんへ大阪港灣福利

厚生協会職員は「毎年参加していますが、去年からは演奏も加わり、厳粛な中にも華やかさが見られて良かったです。こうした地域との「コラボレーション」は、市民が大阪港の歴史を学ぶきっかけになり、特に参加した子供たちの心に残るでしょう」。また築港中吹奏楽部部長の坂東美咲さん(三年生)と副部長の井上華佳さん(同)は「とても暑かったですが、一生懸命演奏しました。西村捨三さんのことは学校でも学び、とても偉大な方だと思っています。今日はこんな意義ある式典を演奏で盛り上げるのができ、嬉しく思っています」と話していました。

◆ 築港工事に熱意 初代所長

西村捨三氏は一八四三(天保十四)年八月、旧・彦根藩(現在の滋賀県)の生まれ。大阪府知事、内務省土木局長、農商務次官などを歴任。北海道炭鉱汽船会社の社長をしていた時、大阪の築港工事に強い熱意を持ち、「工事が始まったらいっつも社長を辞めて指揮をとるべし」と約束。大阪市の参事会員として待機。その熱意に動かされた市は破格の条件で同氏を「築港事務所」初

代所長に迎えました。

同事務所は一八九七(明治三十)年九月、川口居留地に設けられ、十月には天保山砲台内で起工式が行なわれましたが、同氏は衣冠束帯(公卿の正装)に威儀を正し、行列を従えて所縁の神社に参拝、神の加護を祈って仕事を始めたと言われています。

◆ 苦難と非難の中で大棧橋完成

工事は、安治川河口と木津川河口から沖合に向かつて二本の防波堤を築き、これに囲まれる海面のうち二〇〇万坪(約八六〇万平方メートル)を三〇尺(約二〇メートル)の深さに浚渫し、その土砂を利用して二五〇万坪(約四九五万平方メートル)



→ 西村捨三・初代築港事務所所長(上)の尽力で完成した「築港大棧橋」の様子(昭和初期) (下)

の埋立地を造り、さらに海と陸を結ぶ施設として大棧橋と二本の繫船突堤を築造する、というものでした。

しかし工事は思うように捗らず、市民からは「巨費を使つな」とブーイング、さらには石材を運ぶ第五大島丸の沈没事故などもあって、苦難の連続でした。しかし「日本のために大阪港を造るんや」という老所長の決意は動かず、遂に一九〇三(明治三十八)年八月、大棧橋は完成。が、完成後まもなく同翁は脳出血で倒れ、所長を辞職。一年後の一九〇八(明治四十)年一月、郷里・彦根で没しました。享年八十四。

◆ 日本の海運・貿易に巨大な貢献

このあと大阪港は、第一期築港工事(一九一八・一七七年、第二期築港工事(一九二九・四九年)を経て名実ともに日本随一の港に発展。一九七〇年代にフェリーターミナルやコンテナ埠頭などが大阪南港に整備されるまで、約七十年に亘って日本の海運・貿易事業に巨大な貢献を果たしました。

〈以上、歴史部分は港区役所発行『港区誌』『みなとと昔』より抜粋・調整〉

これが港の祭だよ！

区老連まつり 熱気スタート



→ 区老連まつりで河内音頭を踊り続ける港区老人クラブ連合会会員ら。港の老人パワーが会場に溢れた。七月八日午後、港区民センター

港の老人パワーが梅雨空を吹き飛ばしました。七月八日に開かれた港区老人クラブ連合会（原田壽会長、二十三クラブ・二五八〇名員）主催の第一回「港区老連まつり」には会員ら約五百人が集まり、河内音頭の本場である柏原市の老人クラブ連合会とタイアップした踊り主体のイベントを楽しみました。

● 支援される側から支援する側へ

このうち第一部「セレモニー」は午前十一時に開会。原田会長が主催者挨拶に立ちました。この中で同会長は、全国や近畿の老人クラブ連合会の盛大な催しから刺激を受け、大阪府のイベントで柏原市老連からもてなしを受けたことが「この催しを思い立った」という経緯や、東日本大震災後から続けている被災地支援「さんま祭り」の取り組みなどを報告。「今の高齢者は昔に比べて五歳から十歳若い」との学説を引き、「これからは支援される側から支援する側へ。今日は十歳も二十歳も若返って楽しんで下さい」と呼びかけました。またこのイベントの発足を機に、十数名から成る特別行動チーム「若手推進委員」を発足させたことを明らかにしました。

「支援される側から支援する側」と呼びかける港区老連 原田壽会長（上）と「皆さんの元気を他の世代へ」と呼びかける田端尚伸・港区長（下）



● このパワーをさらに大きく

このあと来賓が挨拶。この中で田端尚伸・港区長は「区画整理記念事業で弁天町駅前」に世代間交流拠点を計画している。ぜひ皆さんの元気を他の世代へ分けてほしい。大阪市生きがい課の内村正課長は「港区の六十歳以上二万七千人のうち二万一千人は元気という。このパワーを会員拡大などでさらに大きく」。柏原市老連の古井政男会長は「柏原市は人口七万三千人。港区の皆さんと力を合わせて大阪を支えていきたい」。港区地域振興会の武智虎義会長は「原田会長のリーダーシップと区老連のパワーに感じている。地域振興会も一緒に頑張る」。大阪市の

「力合わせ大阪を支えよう」と訴える柏原市老連・古井会長①と「原田会長のリーダーシップに感心」と語る港区地域振興会・武智会長②



議会の柳本顕議員は「港区老連の熱い風を大阪へ、全国へ吹かせて」、港区選出の藤田あきつ市会議員は「趣味を増やしてさらにお元氣に」とそれぞれ祝辞を贈りました。

「このあと港警察署の二人が『交通安全』と『防犯』特に詐欺から身を守るための日常の『ミニレクレーション』の必要を寸劇で呼びかけました。

● 藤かほりさんら河内音頭

第一部は正午から港区老連と柏原市老連のジョイントで「河内音頭・江州音頭」。椅子を取り払ったホールの中央には檯、周囲には名入れ提灯をずらり吊るしてお祭り気分を演出。その中を、日吉家朝日丸の芸多を持つ柏原市老

連・古井会長を皮切りに、音頭取りが次々と舞台に立ち、太鼓・エレキギター・エレクトーンの伴奏と各いの手を得て、河内音頭や江州音頭を熱唱。参加者はそのリードで踊りの輪を三重に形成しました。

中盤には港区の演歌歌手・藤かほりさんが登場。河内音頭から『忠臣蔵』などを情感たっぷりに歌い上げ、ムードは最高潮。ある人は疲れを知らない子供のように、またある人は昼食の缶ビールで顔を赤くしながら、誰もが喜々洋刺その元氣と歡喜の波はいつ果てるもしれぬつねりを見せていました（実際には二時に終る）。

● これからも続けてほしい



→ 河内音頭をはつらつと踊り続ける参加者①とビール販売などに忙しい世話役の人たち②

「力強い歌唱で会場を盛り上げた藤かほりさん



参加者のうち、赤い法被姿で踊り続けたあと、ひと息入っていたのは楠本フミ子さん（弁天）。「長く踊ったらちよつと腰を休まさんね」と笑いながら「普段はカラオケなどを楽しんでいきます。このおまじりは第一回といつてですが、とても楽しく、これからもぜひ続けてほしいです」と話し、また踊りの輪へ入っていきました。

また世話役として動いていた南市岡寿成会の喜多会長は「お握りとお茶の用意や提灯への名入れなど、準備は大変でしたが、こんなに大勢の参加が得られ、楽しんでもらえてホッとしています。なにせ初めてのことでですから打ち合わせの不十分さから多少のずれもありましたが、そこは老人力と、発足した推進委員の力でカバーし、乗り切りました」と話していました。

水難事故を防ごう

夏休み前 築港中学生が着衣訓練



→夏休みを前に「水難事故を防ごう」と実施された着衣訓練。七月十五日、築港中プール（写真はヒューマンチェーンによる救助訓練風景）

「水難事故を防ごう」と七月十五日、築港中学校で着衣による救助訓練が行なわれました。夏休みを前に毎年実施される同校の恒例行事。

訓練には同校プールを使用し、一年生四十数人（男子二十八人、女子十四人、見学者数人）が体操姿で参加。立石健治校長ら同校教諭十人が立ち会つ中、大阪市水上消防署（築港三丁目）職員八人の指導で、約一時間にわたって行なわれました。

◆ペットボトルなど使って

まずプールに浸かり、着衣で水中に入った場合の動きにくさを実感したあと、「浮き身練習」では①へらげ浮き（脚を抱えてうつぶせに）②伏し浮き（うつ伏せで手足を伸ばして）③背浮き（仰向けで大の字になって）などの動作を、「岸に戻る練習」では浮いたまま手足を動かして岸へ辿り着く動作を、「ペットボトルを使って浮く練習」では①体に抱えて②服に入れて③顎の下に入れて「などの動作を、「ペットボトルを使うた救助練習」では①少し水を入れて②必ず声をかけて③溺れている人の少し手前に投げる「などの動作を、「ヒューマンチェーン練習」では数

「有効性が強調されたペットボトル使用。上は「体に抱えて浮く」練習、下は「投げる」練習



人が手と手をつなぎ合つて溺れている人を岸へ戻す動作を、それぞれ反復。最後に水上署員が「水難救助法」の一部を模範実演しました。各練習の中では署員から、①（溺れたら）慌てずに、まず浮くことと呼吸を確保することを考えよう②靴は浮くのを助けてくれる場合もあるので必ずしも脱ぐ必要はない③水中で服を脱ぐのは難しく、冬場には保温効果もあるので、脱がない方がよい「などの助言がありました。終了後、生徒から署員には感謝の言葉が、担当教諭から生徒には「命に関わる訓練。真剣な態度を貫こう」「今日学んだことをまとめて提出しよう」などの呼びかけがありました。

人と動物の共生を！

「築港町猫倶楽部」活動つづく



→築港町猫倶楽部の活動を支援しようと呼びかけ、人々で賑わうフリーマーケット。七月五日、八幡屋二丁目のブティック「ミント」前で

「野良猫をいやすず、地域で共存できるよう

一緒に行動しよう」と呼びかける「築港町猫倶楽部」が地道に活動を重ねています。七月

五日（日）には八幡屋二丁目のブティック「ミント」前で資金作りのためのフリーマーケットを

実施、道行く人に「町猫」の周知と理解協力を訴えました。

● 異常繁殖や環境汚染に心痛め

同倶楽部は一昨年末、野良猫保護を続ける個

人の自由な集まりとして発足。不用意な餌やりによる異常繁殖と環境汚染、地域の苦情、その

一方で保健所による殺処分（ころせ）に心を痛め、①地域の野良猫（町猫）の不妊・去勢手術を普及する

②町猫の二代限り・一生の保護・管理を行なう③

町猫の考えを広めるを目的として、主に築港地域で活動。その中で昨年は八十二匹を捕獲・

手術すると共に、放置エサ片づけと合わせて付近の清掃も続けるなど、地域美化にも貢献してきました。

● パンフ渡して協力呼びかけ

この日は資金作りのイベントの八回目。新たに協力を申し出てくれたブティック店主の好意に

応え、休業日の同店シャッター前で、朝から夕方までフリーマーケットを開店。天保山公園で

「公園ねこサポーター」（野良猫を増やさないよう適切な餌やりや不妊・去勢手術を行なう市公

認ボランティア）としても活動する尾崎妃奈子（きみこ）さん（池島在住）や他のメンバーが、衣類や靴

類、食器類、雑貨などを買い求める人々に「町猫パンフ」を手渡すなどして支援を呼びかけ、「頑張っ

てね」と声をかけられていました。

● 定例イベント実施、仲間募集も

同倶楽部は原則として毎月第一水曜十九〜二十

十一時に定例会合、毎月第四土曜十一時から定例イベント。また不妊・去勢手術の実施状況や会計報告を含むニュースを定期発行し、フェイス

ブック「築港町猫倶楽部」で情報発信すると共に、活動仲間の募集も呼びかけています。

同倶楽部のホームページは<http://ameblo.jp/chikkooneko>、ヤロメのブログ。メールはchikkooneko.club@gmail.com。電話は

〇五〇・五八三・一五〇七三（録音専用）。

波除小が充実の六連覇

区Pバレー十六チーム熱戦



→区内の全小中学校から十六チームが参加して開かれた第四十七回港区PTTA親善女子バレーボール大会＝七月二十六日（写真は決勝戦）

「バレーボールを通して各校PTTA間の親睦と教育の質の向上を」と港区PTTA親善女子バレーボール大会が七月二十六日（日）、港スポーツセンター（田中三丁目）で開かれました。四十七回目。港区PTTA協議会が主催、港区教育親和会が後援、港区バレーボール連盟が審判などで協力。十六チームが熱戦を繰り広げ、波除小が優勝、八幡屋小が準優勝を飾りました。

●会長や区長が選手を激励

午前九時半からの開会式では主催の港区PTTA協議会・山本慎一会長（市岡中学校PTTA会長が、優勝の姿としての各チームの健闘を呼びかけると共に、「これまで大変お世話になった」と五月に死去した港区バレーボール連盟・萩野久美子前会長の冥福を祈りました。

来賓の田端尚伸・港区長は「港区では子供たちの科学への関心を高める『サイエンスカフェ』などの取り組みを進めているので、声を寄せてほしい」と区の教育事業への関心と協力を呼びかけると共に、「親善の中にもある程度勝負にこだわって、熱戦を」と激励しました。

同じく来賓の港区教育親和会・山本高雄会長

「主催者挨拶をする山本慎一・港区PTTA協議会会長（後ろは審判などで支えた港区バレーボール連盟の役員）と、元氣一杯宣誓する三先小学校PTTAチームの高宮城睦主将①



は、同会が昨年、創立五十周年を迎え、この大会の後援など一貫して港区の教育向上のために活動してきたことを報告すると共に、「安全と健康に気を付け、親睦と共に勝負にもこだわり、有意義な大会に」と激励しました。

●元氣溢れる選手宣誓

このあと三先小学校PTTAチームの高宮城睦主将が「我々選手一同は、日々支え、支えられている家族に感謝し、多忙な中、重い体を起こし練習に励んできました。この最後の大会、自分を信じ、仲間を信じ、精一杯、力一杯、元

気一杯、一戦一戦主力でプレーすることを誓います。」と元氣溢れる選手宣誓を行ない、会場に爽やかな空気を送り込みました。

最後に港区バレーボール連盟の数下俊文会長が「精一杯の審判で大会を支えたい。怪我のないよう気を付けながら、楽しく熱いプレーを」と激励しました。

● 懸命の攻防、白熱の決勝戦

大会はトーナメント形式で進行。南市岡小、磯路小、弁天小を全てストレートで連破した八幡屋小と、港中、三先小、市岡小を全てストレートで連破した波除小が決勝に進出しました。午後三時半ごろに始まった決勝戦では、両チームとも四試合目であって疲れがピークに達する中、ミスにも声をかけて励まし合いながら白熱のプレーを繰り広げましたが、船感美幸主将を中心に、サブやサブカットやレシーブからトス、アタックへと流れるような連係が最後まで崩れず、四枚アタッカー（エース北川を軸とする寄川・広瀬・船感）にボールを集めて効果的に得点を重ねた波除小が、二十一対十、二十一対十七の連取、余裕をもって勝利を収めました。

た。どこまでもボールを追う、厳しいスパイクにもひるまない、ミスしても引きずらない、冷静に相手の隙を突く、無駄な動きをしないなど、全体として精神力の強さが光りました。

一方の八幡屋小は森重栄美主将を中心に、粘り強いレシーブで簡単に得点を許さず、四枚アタッカー（森重、新原、木下、石井）にボールを集めて懸命の応戦。第 3 セットではマッチポイント直前にあわやの猛追撃を見せる粘りを見せましたが、及ばずゲームセット。持ち味の臨機応変の全員バレーをこの試合では充分に発揮することができませんでした。

● 市岡小と弁天小が二位

波除小は六連覇。平成元々八年度に未到の八連覇を達成して黄金時代を築いたOBらのねぎらいを受けていました。優勝 十二回は大会史上断トツの一位。OBの娘さんも活躍するなど、世代を継いでバレーボールを愛する地域の伝統の力が生きた、充実の優勝でした。

一方の八幡屋小は六度目の準優勝。勝てば三十二年ぶり五回目の優勝といつことで、決勝ではOBや学校関係者が声を張り上げて応援しま

したが、一步届きませんでした。

三位は市岡小と弁天小。他チーム（築港中、港中、港南中、市岡中、市岡東中、築港小、港晴小、池島小、三先小、南市岡小、磯路小、田中小（順不同）も練習の成果を発揮して健闘。敗れたあとも最後まで、様々な役割を担って運営に協力しました。

● 優勝チームは西ブロック大会へ

閉会式では山本会長が三位までのチームに賞状やトロフィーや賞品（バレーボール）を授与。田村妙子副会長（市岡中学校PTA副会長）が講評に立ち、港区バレーボール連盟や大阪府柔道整復師会などの運営協力者に感謝を述べると共に、全試合ストレート勝ちで六連覇の偉業を果たした波除小には「市大会では港区代表として優勝めざしてほしい」と期待を述べ、ラリーの応酬などで沸かせた他チームには「おいしいお酒を」とねぎらいの言葉を贈りました。

なお、この大会は大阪市PTA協議会主催の市大会（来年二月）予選を兼ね、優勝チームはまず西ブロック大会（十一月）突破を目指すこととなります。

←六連覇に笑顔はじける波除小学校PTAチームと応援の人たち（後列右端は祝福する港区PTA協議会 山本慎一 会長、同中央は波除小学校PTA・宇都宮幹人会長）
うつのみやみきひと



●七連覇へ「つなぐバレー磨く」波除小
優勝した波除小学校PTAチームは柙原まさえ正校監督のもと、同校で毎千曜、各三時間の練習を重ねてきました。選手たちの年齢幅は三十三〜四十七歳。

船越主将は「全試合を通じて強気なサーブで主導権を握れたのが、優勝の一番の要因だと思います。決勝戦の終盤、優勝を目前に気の緩みが出たのは反省点です。六連覇はもちろんうれしいですが、特に、この大会が最後になるアタッカー（ライトセミ）北川あかねさんとセッター（シスター）西江裕子さんの花道を飾れたのが一番うれしいです。七連覇に向けてはやはりレシーブやサブカットなどの基本プレーを徹底して鍛え直し、つなぐバレーをさらに磨き、一人の穴をカバーしていきたいと思っています」と話していました。

●来年へ「精神面の弱さ克服」八幡屋小
一方、準優勝だった八幡屋小学校PTAチームは同校で週一回、一時間と三時間の練習を重ねてきました。年齢幅は三十一〜四十二歳。森重主将は「何でも話し合い、ミスしても笑

←準優勝に爽やかな笑顔の八幡屋小学校PTAチームと応援の人たち（後列右端は祝福する港区PTA協議会の田村妙子副会長、同左端は八幡屋小学校PTA・松原三希子副会長）
みきこ



顔で乗り切る主将バレーがうちのチームカラー。相手チームの特徴に応じて臨機応変に試合運び

を変えられる柔軟なバレーを意識して練習に励んでいましたが、準優勝はその成果だと思っています。今後に向けては、決勝戦に表われたようなプレッシャーに萎縮したりミスを引きずったりする精神面の弱さを克服すること、技術的にはブロック、サーブ、サーブカットなどの基本プレーをより安定させることが課題です。平均年齢が低く（若く）、来年もほぼ同じメンバーでプレーできるので、その強みを生かして次の大会でも頑張ります」と話していました。

● 大会を支えた区バレー連と整復師

なお、この大会には港区バレーボール連盟の審判員が審判などで全面的に協力。また大阪府柔道整復師会港支部から八木接骨院（港曙）の八木民樹院長、（一ツ）整骨院（市岡）の桂剛院長が全時間待機し、捻挫、肉離れなどを訴える十数人にテーピング、マッサージなどの予防・応急処置を施し、選手たちの安全を支えました。二人は終了後、「大きな事故や怪我もなく終わることができ、良かったです」と胸をなで下ろしていました。

スポーツ

夏空の下で波しぶき

大阪港カッターレース、港区勢も健闘



→ 強烈な日差しの下で五十四チームが波しぶきをあげた「大阪港カッターレース」Ⅱ七月十二日（写真は男子一回戦のスタート風景）

大阪の夏の風物詩となった「大阪港カッターレース」が七月十二日（日）に天保山岸壁前海域で開催されました（大阪港のみなとまり）の

一環。実行委主催、一七八回（目）。五十四チーム（男子四十一、女子十三）が参加、うち港区からは十チーム（男子九、女子二）が出場。梅雨明け前の強烈な日差しの下、波しぶきをあげながら力一杯オールを漕ぎました。

競技はトーナメント方式で行なわれ、午前九時過ぎスタート。男子は四回戦、女子は二回戦に及び、熱戦が午後四時前まで続き、結果、男子はチャレンジ権（神戸市が）、女子はチャレンジ権（LADIES（同）が優勝を飾りました。

● 辰巳商会チームが3位に

港区からは、なにわのつみまる（海上保安庁）、なにわのつみまる（同）、ドラゴンズブリッツ（辰巳商会（株）、ドラゴンファイターズ（同）、SKマリンスズ（一般財団法人新日本検定協会）、SKマリンスターズ（同）、MAGUUCHI CUTTER CLUB（（株）口）、ワイルドアームズ（大阪市港運局）、近畿レインボー（近畿港運（株）Ⅱ以上男子、住友倉庫スーパーレディース

(株)住友倉庫)「女子」の計十チームが出場。

このつちドラゴンファイターズは三位、ドラゴンスピリッツは「回戦進出と健闘。またSKマリンスターズには三千位、ワイルドアームスにはブービー(三十九位、なにわのつみぎる)は「スチュームの多賞が贈られました。

●「チームワークの快感」と出場女性

レース後、自分たちの成績(一分十八秒十九で対戦相手「きりん組」の一分十三秒十に約五秒及ばず一回戦敗退)を掲示板で確認していたのは

(株)住友倉庫(港区海岸通)OGチーム「SWOOG」
スウォッグ

の八人。同チームはこの大会の第一回に住友倉庫の女子チームとして出場したメンバーが、退職してそれぞれ家庭を持ちたりして一旦はばらになったあと、この大会が十回を迎えた頃、
よねだがすこ
米田和子さんが『もついちぢやろうよ』と呼びかけ、再結成されたそうです。チーム名は英語の『スミトモ・ウェアハウス・オールド・ガールズ』の各頭文字を取ったとか。このチームでの出場は七回目。年齢幅は四十五〜六十三歳。ほとんどが大阪在住です。

メンバーの一人、溝畑早苗さん(六二)＝神戸

市は「一回戦突破、できれば優勝」を目標に出場しましたが、わずかに及ばず、残念です。

普段はなかなか顔を合わせられないので、練習やトレーニングも充分ではなく、今回も直前に淡輪(たんのわ)で一回練習したきり。ほとんどぶっつけ本番でした。それでも、みんなの力と心が一つになって船がグッと進んだ時の気持ち良さは言葉にできません。このチームワークを味わいたくて続けているようなものです。来年も楽しみにしています」と話していました。

●「気持ちのいい催し」と見物男性

また見物の六十代男性は「港区の広報などで知って毎年観(み)に来いますが、普段は別々の職場で働く人たちが夏空の下でカ一杯オールを漕いで交流される、とても気持ちのいい催しですね。勝っても負けても皆さんの表情が明るく、こちらにも元氣になります」と話していました。

岸壁では、選手に声援を送る家族、テントの中で寝転(ねて)ぶ選手、海をバックに記念写真を撮(と)るチームなどが至る所に見られ、この催しが、単なる競技の場ではなく、くつろぎと交流の場にもなっていることが感じられました。

スポーツガイド

●みなとプロレス「地域元氣プロレス」

プロレスで地域を元気に！「青少年に正義感と勇気を！」と活動する港区のプロレス団体「みなとプロレス」(代表:ミッキー隼野(はやの)さん)の第五回興行。正義派(よしい)ミッキー隼野(はやの)シニア目せ、HARU。などと悪漢の対決をメインに三回試合。人気女性レスラーHARU。さんはアキレス腱(けん)断裂(りゅうてつ)などで療養中。今回で引退を表明。八月十六日(日)十三時から港区民センター(弁天二・一・五)で。入場料三千五百円(前売三千円)、各種福祉手帳所持者、小学生以下、六十五歳以上は無料。問合せはH・E・V・o・u・t・i・o・n 企画(☎080-3066-0639)へ。



→来場を呼びかけるミッキー隼野代表(上)と、今回で引退を表明しているHARU。さん(下)

芸能ガイド

● 藤かほり「盲導犬チャリティー」 「目の不自由な人たちに盲導犬を！」と波除在住の演歌歌手・藤かほりさんが開く恒例イベント。二十回目。盲導犬一頭の養成には三百万円かかるとされ、一回ごとに収益から視覚障害者施設に寄贈して十回目に一頭分を達成。再び結実の時を迎える。九月二十七日(日)十三時から港区民センターで入場料 千円。『男の夢土代』など艶も情も迫力もある「がほり節」をたっぷり。人気漫才師・正司敏江さん、港区の演歌歌手・杉俊一さん、北海道の歌手・山村正幸さん「港区の天童よしみ」と天井よそみさんら多彩なゲストが盛り上げる。 ☎六五八二・二四一 藤正画。



→「今年も頑張ります」と意欲満々の藤さん

ライブガイド

● 八幡屋出身のロックドラマー 桐田勝治さん きりたかつじ
日本のハードロックバンドのトップを走り続ける人気バンドに所属。港中学校出身▽十月十一日(日)十八時半から江坂ミューズ(吹田市豊津町二〇・二五ライブプラザブルーミン五階)地下鉄江坂駅⑨出口歩一分 ☎六八二七・〇一〇三
で、十月十二日(月祝)十八時から神戸チキンジョージ(神戸市中央区下山手通一・一七・二・地下一階) J.R.阪急・阪神三宮駅歩十分 ☎〇七八・三三三・〇二四で所属バンド「ガール」のワンマンライブ「觸腰龍」出演予定。
● 三先のフォーク歌手・ペドロさん 切断フラザース(左手親指切断の共通体験を持つ三人で〇六年結成)のリーダーやソロで温かな雰囲気オリジナルフォーク▽毎月第一・三木曜 千時ザ・セラー(中央区西心斎橋) ☎六二二・一六四三七)▽毎月第一火曜 千時半ロージー(中央区西心斎橋) ☎六二二・三九九九)▽毎月第三火曜 千時かつおの遊び場(中央区宗右衛門町) ☎〇九〇・五八八二・七〇二五。

● 市国元町在住の音楽ユニット「花☆キャラ」

ポップスから沖縄民謡まで生活に根ざした明るく前向きで分かりやすいオリジナルソング▽CD『マルグリータとトマトパスタ』『あなたらしくあたらしく』好評▽HPは「花☆キャラ」で検索可、港新聞ホームページからリンク。

演劇ガイド

● 弁天町ORC200生活者センター「夏休みこどもOH!笑い塾」 「喜劇はチームワークとコミュニケーションやで」舞台の上で思い切りはじけよう!と大阪出身の放送作家・砂川一茂さんが喜劇の基本やコツを子供たちにやさしく楽しく伝授した成果を披露。演目はお楽しみ。吉本ギャグなどが随所に炸裂する。八月十一日(土)十四・十五時に同センター特別会議室で。観劇無料。 ☎六五七七・一四一〇。

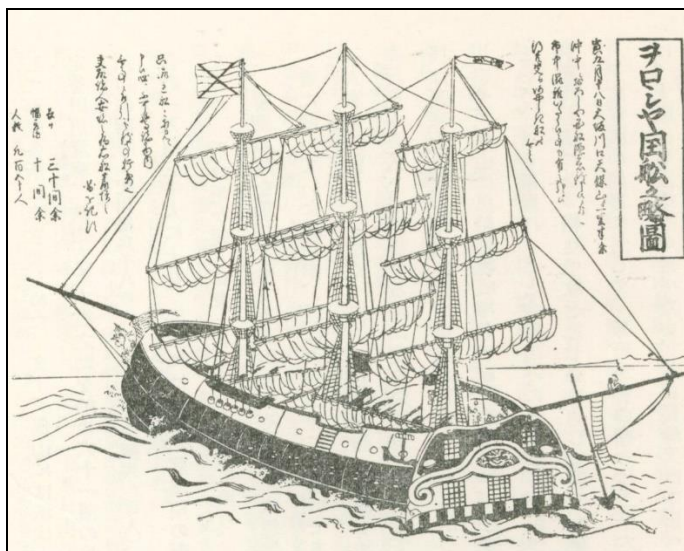


→好評だった昨夏の発表劇『幽霊食堂』から

みづちやんの

港区なるほど歴史ガイド

●…ロシアの黒船騒動 その三



→大阪湾防備の必要を気づかせたティアナ号

前回まで 西欧諸国がアジア侵略を進める中、一八五四年九月十八日、プチャーチン率いるロシア軍艦ティアナ号が「アメリカに後れを取るな」と通商を求めて来航。大砲八十門を備えた威容に市中は大騒ぎ。官民・陸海あげて一大防衛ラインを敷きつつ幕府の指示を仰ぎ、十五日後、ようやく下田へ回つてもうった。

天保山に本格砲台

幕末動乱へて明治天皇が観艦式

ともあれ、幕府はこつした黒船の相次ぐ来航を受けて、「えらいこっちゃ」と海岸防備の必要に迫られました。

◆防備必要も、すぐには着手せず

そこで安政元（一八五四）年十一月、勘定奉行（収税・出納・訴訟などを担当する役職）・石河政平、目附（旗本など將軍直属家臣の監視役・大久保忠寛に命じて、大坂や伊勢の沿岸を見回らせ、同二年七月には、かのロシア艦来航に対応した大坂城代・十屋寅直に「安治川・木津川の画河口に四力所の台場（砲台）を築き、砲

艦二十艘を備えなさい」と命じました。が、直ちに着手するには至りませんでした。

翌安政四（一八五七年）には松江城主・松平定安が安治川口の守りを命ぜられ、翌五（一八五八）年には鳥取城主・池田慶徳の藩兵がこれを引き継ぎ、五年後の文久三（一八六三年）慶徳は老中（幕府最高の執政官）・小笠原図書頭と共に海岸を見回り、「砲台を目印山（天保山）に設けるべきです」と意見しました。

◆もたもたして之間にイギリス艦が

それでも財政難からか、本格的な砲台を築造せずにもたもたしている間に、同年四月二十一日には、京都に来ていた將軍・家茂が大坂の海の守りの現状を見るため大坂城に入り、二十三日、目印山の台場を視察、二十八日には再び目印山に登って、大砲の発火（空砲打ち）演習を視察しました。

そこへ同八月、イギリスの軍艦がやって来て目印山近くの沖に停泊。びっけりした鳥取藩兵があわてて砲撃したものの、弾丸は届かなかった、という事件がありました。

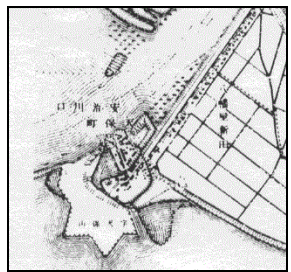
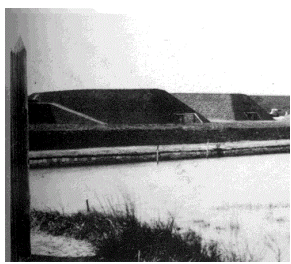
◆ようやく本格的な砲台が

「」に至つて元治元（一八六四）年正月、幕府は延び延びになつていた目印山への本格砲台築造に着工。樹木を伐採し、一千にあつた山を七段まで切り崩し、砲台五基、大火薬庫一棟、小火薬庫十九棟を備えました。これによつて、名所図会などにも描かれた景勝行楽の地、天保山の昔日の俤は完全に失われたのでした。

五月十一日には將軍・家茂が再びやつて来て、目印山に台場が築造された様子を確認し、同十五日には幕府の蒸気船「翔鶴丸」など七隻と帆船一隻を天保山沖に集めて実戦訓練し、さらに守りを強めました。

◆明治維新、天皇の觀艦式も

そのついでに内には存じ幕末の風雲は急を告げ、慶応四（一八八八）年正月、幕府軍は



→明治時代の天保山砲台とその位置図

鳥羽伏見の戦いで薩摩・長州連合軍に敗れ、最後の將軍・徳川慶喜は大坂城を出ることを決意。八軒家から乗船して、天保山に停泊する軍艦、開陽丸に乗り移り、同月八日には急ぎよ錨を上げ、東へ向けて出帆しました。一つした事態急変に、大坂庶民は大いなる不安を感じ、市中は一時、無政府状態に陥りました。

権力を握つた新政府は同七日、慶喜追討令を発すると共に、幕府側の太閤たちに「君らはどうするの」と態度をはつきりするよう迫りました。翌月三日には親征天子自ら征伐することの詔（天皇の言葉）を発布。数百年続いた慣例を破り、初めて大坂に行幸（お出かけ）されることとなりました。同月十三日、八軒家に到着、二十八日には富島、丁自浜から船で天保山台場に着き、各藩の軍船を視察したのです。

この時の参加艦船は、肥後藩の万里丸、長州藩の華陽丸、薩摩藩の三邦丸、久留米藩の千歳丸、佐賀藩の電流丸、安芸藩の万年丸の六隻とフランス軍艦テュブレクスでした。これが我が国最初の「觀艦式」（国家元首が海軍の艦船などを視察する儀式）となり、その記念碑は今も天保山

←天保山の山頂に建つ明治天皇觀艦式の記念碑



の山頂に建っています。

因みに、この觀艦式に参加した日本艦船のうち軍艦は電流丸と万里丸の二艦だけで、その他は輸送船。その総トン数もテュブレクス一艦に満たなかったようですが、政府の指令で艦船が隊列を組んで行動した意味は大きく、近代日本海軍のスタートになったとされています。

さて明治に入ってからのお話はまた次号で。

（ロシアの黒船騒動」の連載のわり）

※連載中の参考資料「『港区誌』『写真集 港区の歴史と風景』『大阪編年史 第二巻』『ウィキペディア』『新修大阪府史 第四巻』『大阪春秋』六十一号（南木淑郎「大阪湾のロシアの黒船」）。

＜小西典 港区田中在住の郷土史研究家＞

みなと

人生

劇場

場

港区民の手記をもとに、地元在住の作家・青木健一さんがつづる『正地ドラマ』。第八弾は、田中在住の九十年代女性が辿った波乱万丈、愛と涙と笑いの家族物語、港区版「おしん」。

こううんばし そら

幸運橋の空 (十)

(前号まで) 港区のデパート・デパートに通う大東久美子は次男の勧めで回想録を残すことになった。――大正十年、六人兄弟姉妹の長女として浪速区に生まれた久美子は、腕の良いベルト職人だが女遊びと博打に目がない父に苦労させられながら、奉公の連続で母や弟妹を助けた。引越し先の港区でも学校を離れて三年契約の子守奉公。その女主人の好意で母は幸運橋市場に海産物店を開業。やがて務めを終えた十三歳の久美子は家族と別流。母と共に大黒柱となつて一家を支えた。一方、出張先の上海から梅毒を

患つて帰国した父も合流したが、相変わらぬ賭博癖や過剰な世話焼きで家族を苦労させた。この間に中国から太平洋へと戦火は拡大、久美子らの生活も軍事色に染まっていた――

●海産物店できず、日立造船へ

昭和十七(一九四二)年、久美子は二十一歳になっていた。食料の流通は既に統制を受けて配給制となり、米や野菜や魚などがそれぞれの担当(米は米屋、野菜は八百屋、魚は魚屋)によって決まった量だけ町会や班へ配られる形をとっていたので、海産物を扱う久美子ら一家の商売はできなくなっていた。それで、手が空いた父は町内の配給の世話役を受け持ち、母は近所で下宿屋を営むようになった。

一方、久美子は弟妹たちをこれまでと同じように食べさせるため、また「国から徴用(勤労動員)を言われる前に自分から」といふ気持ちもあつて職探しに走り、幸い、此花区の日立造船女子部に職を得た。上の弟の善道も、久美子と同じ日立造船の仕上げ部に見習工として入った。久美子より二歳下の十九歳だった善道は、のちに甲種合格になったくらい体格がよへ、仕

事の腕も優秀だったので、しばらくして神奈川の工場へ回された。下の弟の捨五郎は東田中国民学校高等科(今の中学一、二年)へ進んだ。小学校もほとんど行けなかった久美子は、弟妹の進学や卒業を羨ましく思いながらも我が事のように喜び、支えてやった。

久美子は毎日、築地の渡船で安治川を渡った。日立造船には当時一万人もの職工が勤めており、久美子の職場では海水を濾過して真水にする装置の部品のような物を作っていた。給料は一日九十銭とますますだったが、困ったのは弁当のおかずだった。なかなか手に入らず、おまけに父が「配給の物は(皆の物だから)絶対に食べたらあかん」と、こつこつとこころは妙にきつちりしたことを言うので、仕方なく闇(正規でない)売買で二円十銭もする磯自慢の海苔の佃煮などを手に入れ、おかずにした。

●船大工・正義との見合いへ

その頃、安治川はよりずっと幅が狭く、水がきれいで、泳ぐこともできたが、その川べりの石田神楽町に木造船の造船所があった。堀囲いの内側には部厚い板を何枚も敷き詰めた上に

二十艘ふたじゅうせんくらいもの伝馬船でんませんが並んでいた。田中元町二丁目にあった久美子の家から二日間にふたにちかん（三十三）四十よほど離れていて、久美子は犬を散歩に連れて行った時などに目にしては、「ああ、こんなところに造船所があるんやなあ」「くらいに思っていた。が、そこは少しのちに久美子の夫になる大東正義の実家だった。父親の保太郎やまとのりおを中心に大勢の船大工が働き、軍隊から戻った息子の正義も手伝っていた。

やがてその大東家が「嫁を探している」という噂うわさが久美子らにも伝わってきた。「久美ちゃん、行けへんか、ええ人らしいで」と勧める人もいた。しかし、幼い頃から父のひどい行状うやうやしいを見て育った久美子は「男なんて碌ろくなもんやない。結婚なんて絶対せえへん。一生二人で生きるんや」と堅く心に決めていた。

ところが晩、日立造船の仕事から帰ってくると、近所の湯浅という魚屋が家に上がっており、「いきなり「久美ちゃん、見合いせえ。お前は背は低いし器量けいりやうももひとつやけど、よく働くからな」と言った。この湯浅は数年前、父に店と住居を世話してもらったのを恩に着て、久



美子一家の世話を何くれとなく焼くようになった。その頃、母は下宿屋で寝泊まりし、父は胃潰瘍いはいようで入院中。久美子ら兄弟姉妹だけの家へ、次の晩もその次の晩も、湯浅は同じことを言いに来た。それでとうとう根負けした久美子は「第弼生館」という映画館の横の「キムラ」という喫茶店で見合いをすることになってしまったのである。

● 緊張の見合い、父も承諾

昭和十七（一九四二）年十一月十日の夜、「行けへんねん、行けへんねん」と抵抗する久美子の手を引く張つて、湯浅は久美子をクルマへ連れて入った。それまで、奉公生活は誰よりも長かったものの、他家の年頃の男性と喋るしゃべのは、日立造船で職長と必要最小限の言葉を交わすくらいしかなかった久美子は、ひどく緊張して、まともに顔を上げることもできなかった。

相手は大東正義、二十八歳。船大工の家の次男だった。既に満州へ出征していた長男に続いて自分も二十一歳で現役召集を受け、近衛兵として東京・麻布の近衛部隊に所属、中国の漢口で警備の任に就いたりしたあと、一年余り前に満期で除隊となつて家に戻り、家業の船大工の仕事に就いていた。

湯浅が懸命に取り持つてくれる中、ぼつたりした干柿ほしがきをケーキ代わりに、麦を焦がして湯に溶かした飲み物を「ケーキ代わりに、二人はぎこちない会話を交わし、何とか見合いの体裁を繕つくろつていふやうだ。

その晩遅く、築港の船員病院向かいの大野病院へ入院していた父・弥太郎やたろうの元へ、久美子は湯浅と一緒に見合いの報告に行った。湯浅が父に「おっちゃん、おめでごと」と言つと、父は「犬や猫やあるまいし、簡単に（久美子を嫁に）やるかい？」と怒り出した。「釣書つりがき（身上書）あるんか、釣書持つて来い！」と怒鳴るのど、湯浅は持参した釣書を父に見せながら色々と話し込んでいた。そして結局その夜、父は洪々、久美子の結婚を承諾したのだった。（つづく）

平和のため

戦争体験

語り継ごう

おがわ ひろし

小川 宏さん(八〇) 井天在住 ③



前まで昭和十年、港区西市岡の酒屋の長男に生まれた私は、太平洋戦争開始のあと吾妻国民学校へ。戦争が深まる中、昭和十九年九月、香川県琴平町に近い川岡村の教團寺へ集団疎開。家が恋しく、食料不足が何より辛かった。

大空襲で我が家焼失

弟が衰弱死、三田で過酷な勤労奉仕

この教團寺の集団生活では水道がなく井戸水。風呂は五右衛門風呂(直接電の上に据えた風呂で、浮き蓋を踏んで沈め、その上に乗って入る)。皇后陛下からバスケットを頂いたり、昭和二十年一月には朝起きたら一面の銀世界にびっくりしたり、冬には農家の麦踏みを手伝ったり、生まれて初めての経験を色々しました。そんな中、担任の二川という女の先生が隣の大野村の出身で、食料調達に力を尽くしてくれました。正月には蜜柑を一人四十個ももらったり、ひと月に一回、二人一組で農家に泊って手打ちうどんをふるまってもらったりしました。まだ大人用の自転車に乗れたのは、酒屋の業務用自転車に小さい頃から丁稚乗り(サドルに跨らない独特の乗り方)をしていた私だけだったので、一里(四キロ)離れた先生の実家との連絡は専ら私でした。途中で火葬場があつて、そこを通る時はさすがに気味悪い思いもしまし

たが、実家では、お駄賃にお菓子や薩摩手を頂くと一つ特典に浴する楽しみもありました。

川岡村の国民学校で勉強した記憶はありませんが、吾妻国民学校から一緒に来た岡丁の先生の指導で、その学校で絵を描いたことは覚えています。のちにその作品が高松市の百貨店に「疎開児童の絵」として展示されたと聞きました。またその学校の高等科(今の中学二、三年)の生徒が飛行訓練をしていたのを覚えています。

◆父が、母が、面会に

お寺には時々面会があり、私の母も一回来てくれ、出征して高知県で任務に就いていた父も何度か来てくれました。父は戦下でも長寿を願ったのが、或いは私への形見の意味もあったのか、直径一センチ位の竹筒に「古稀」と彫ったペン立てを持ってきてくれました。また低学年は家に手紙を書くことはありませんでしたが、上級生は書いていました。のちに読んだ彼らの手紙は、国の行く末や父母の生活を気にかける、本当にしつかりした内容で、二、三年上だとしても違つもんか」と甚く感心したものでした。

◆大阪大空襲で港区の我が家も

そんな集団生活も半年になつてしまつていた昭和二十一年三月十三日の深夜から十四日未明にかけて、港区、西区、浪速区など大阪市中心部を二百七十四機ものB29の大編隊が襲い、無数の焼夷弾（爆発ではなく火炎や高熱で人や物を殺傷・破壊する爆弾）を落としました。いわゆる「第一次大阪空襲」で、これによつて大阪では「罹災者」五十万人、家屋全焼十三万五千戸、死者四十人」（大阪府警憲務局発表）、港区でも「罹災者」七万五千人、家屋全焼一万余戸、死者四百余人」（同）という甚大な被害を受け、その中で我が家も焼失してしまいました。これはあとで知ったことですが、先に述べた、うちの向かいの鉄工場の大きな防空壕には、難を逃れよつたたくさんの人が避難してきたのですが、不運にも焼夷弾の直撃を受け、全員が焼け死んだといつてました。

◆ 運命の迷った母と弟

この時、我が家には小さい弟一人がいて、母は一人を抱えて火の中を必死で逃げ回り、命だけは辛うじて守り抜くことができた。不幸中の幸だったのは、この空襲では

昭和二十年三月十三・十四日の大阪空襲を描いた港区民の絵。上は火の海となった千代見町付近、下は空襲後の抱月町付近の惨状



の辺りを境に、港区の東半分が標的にされたことでした（西半分は八月一日の空襲で壊滅しました）。そのため母らは近くの橋を渡つて火のない西側（東田中町方面）へ出、助かったのです。

◆ 下の弟の可哀想な最期

とはいえ焼け出された母は、とりあえずの住居を求め、兵庫県道場（現三田市）の遠い親戚（豪農）でしたの許へ身を寄せたのですが、この時の移動などの無理が幼い体に相当堪えたのでしよう。昭和十九年生まれでまだ一歳にもならなかった下の弟・泰彦は、この疎開先に移るや、すぐに衰弱して死んでしまったのです。医

者にもかかれず、薬も食べ物も充分に与えられないままの、本当に可哀想な最期だったと聞いています。遺体は近くのお寺の木の下に埋めたのですが、戦中のごとき、墓も仏壇も作れず、母はさぞ辛い思いをしたと思われます。

◆ 三田国民学校で勤労奉仕

その一方、実家の関係で顔が広がった母は知人に頼んで、琴平に疎開していた私を大阪へ連れ戻した上、自分たちが疎開した道場へ呼び寄せ、そこに三田市内の屋敷の借りを結び、結局、母と私と上の弟はそこで終戦まで暮らすことになったのです。ちょうど四月で、そこから私は四年生として三田国民学校へ通いました。

しかし、この学校ではほとんど勉強した記憶がありません。六月からは勤労奉仕といふことで、来る日も来る日も開墾のため竹藪へ向かいました。詳しい事は分かりませんが、船や飛行機の燃料となる松根油（しょうこんあぶら）を作るために松の根を掘り出す作業といふことでした。炎天下の田舎道を学校から一時間以上も鋤を担いで歩くのは、地元の子はともかく、街中でひ弱に育った私にはとても辛いものでした。（つづく）

感動が老化を防ぐ

あながいおまる一座「文月物語」に反響



→「感動が老化を防ぐ」をテーマにしみじみとした感動を呼んだあながいおまる一座『文月物語』の一場面＝七月上旬、石炭倉庫で

「感動が老化を防ぐ」をテーマに、七月上旬、

フリースペース

波除の自由空間「石炭倉庫」で上演された『文月物語』が反響を呼びました。庶民の優しさや逞

しさ、社会的メッセージを込めた演劇を世に問

い続けるあながいおまる一座のスタジオ公演。

四年前に他界した座付き作家・綾羽一紀さんの

あやはかすき

原作・脚本を元に、あながいおまる座長が演出、

ヨッシー原本さん、八上祐子さん、後藤基昭さ

やがみりこ

ん、八上莉子さんが演じました。

——老いを感じ始めた作家・若崎哲雄。今や

てつお

「文章の切れが悪い」「元気がない」「真面目す

ぎる」「読む人に希望を与えない」と月刊誌の連

載打ち切りの危機に瀕している。そこへ、三カ

ひゃくご

月前に逝った妻・日出子の亡霊が現われ、夫が失

いかけた記憶や感動、作家としての原点を取り

戻してもらおうと働きかける。三十数年前、知

り合ってた間もない頃の公園でのデート。カセッ

トテープでクラシック音楽をかけながら架空の

美術館を案内したり、熱く文学への情熱を

語ったりした哲雄。しかし、その後は鳴かず飛

ばずでうに至った。「あの哲雄さんはどこへ行っ

たの」「賞も文声も必要ないわ。書いたことがど

「まで生き続けるかが大切なよ」と叱咤する

しった

日出子。やがて作家の不調を「妻に先立たれての

認知症かも」と心配した編集長・滝沢は彼を行き

つけのバーに誘う。そこに同席した若い女性編

集者は言う。「人間の脳には一千億の神経細胞が

死ぬまで活動しているの。それが元気で活動し

ている限り、脳は衰えないのですって」。ほろ酔

いの帰り道、星空の下で妻の気配を感じながら、

作家は気づく。「わくわくするものを見つけた」と、感動するところが脳を言はせるのか——。

◆高齢社会をどう生きるか

老いの哀感を見事に表現した作家役・ヨッシ

ー原本さんら出演陣の抑えた演技が舞台にしみ

じみとした味わいを漂わせました。訪れた女性

編集者と作家と妻の、見えるか見えないか、聞

こえるか聞こえないかのユーモラスなやりとり

も秀逸。ムソルグスキー『展覧会の絵』、ボロデ

イン『中央アジアの草原にて』など古典音楽の

効果的な使用は感動をより深いものにしていま

した。全体として、誰にも訪れる老いの光景と

そこからの再生を通じて「高齢社会をどう生き

るか」を観る者に問いかける舞台でした。

文化的イベント案内

みなとカルチャ

● 港図書館

①図書展示「受賞図書」展Ⅱ九月二十九日(火)まで開催中。昨年に各種の文学賞を受賞した図書を一堂に②おたのしみ会Ⅱ毎週水曜日の十五時半～十六時にじゅたんコーナーで。幼児と保護者を対象に絵本の読み聞かせや紙芝居、パネルシアター、手遊びなど。申込不要③あかちゃんのおたのしみ会Ⅱ毎月第一金曜日(九月は四日)の十一時～十一時半にじゅたんコーナーで。赤ちゃんと保護者を対象に、赤ちゃんが絵本に親しめるよう工夫。申込不要④図書ボランティア(高齢者施設募集中心)九月四日(金)締切。港区内の特別養護老人ホーム「ザイオン」「愛港園」が活動場所。九月十八日(金)、十月九日(金)、同二十三日(金)の三回は午前十～十二時に大阪市中央図書館で受講。十月十七日(土)、同十八日(水)の二回は港区内の高齢者施設で活動見学など。原則として全講座の受講が可能。受講費は無料。詳しくは大阪市立図書館のホームページを見るか港図書館に問

い合わせを。新しい仲間を待っています(現ホ

ランティアの皆さま)▽86576・3346。

● 関西フィルハーモニー管弦楽団「いずみホ

ルシリーズvol.38」クラシックの魅力

を再発見する同楽団の人気シリーズの三十八回目。「人生は、死への前奏曲なのか?」…呪い&レ・プレリュード」と題し、クラシック界におけるヨーロッパの偉大な伝統の継承者としての地位を確立し、同時に今世紀最高のヴァイオリニストの一人として国際的に高く評価されている関西フィル音楽監督オーギュスタン・デュメイさんの指揮で、「死」「愛」「嵐」「慰め」「挑戦」→指揮を担当するオーギュスタン・デュメイさん(©T. Daguzan)とピアノ独奏を担当するアレクサンドル・カントロフさん(右)



などのテーマをちりばめ、リストの人生観を諷

い上げたと言われる交響詩「レ・プレリュード」

などを贈る。演奏曲目は、①ワグナー：ジーク

フリート牧歌②リスト：呪い③リスト：ピアノ協

奏曲第一番 変ホ長調④リスト：交響詩「レ・プ

レリュード(前奏曲)」。

名ヴァイオリニストに

して指揮者のジャン・ジャック・カントロフを

父に持ち、抜群のテクニックと情感溢れる演奏

で注目を集める若きピアノリスト、アレクサンド

ル・カントロフさんが得意のリスト二曲を披露。

九月十日(木)十九時からいずみホール(JR環

状線・大阪城公園駅歩三分、JR環状線・東西線

「京橋駅」南口歩八分、地下鉄長堀鶴見緑地線「大

阪ビジネスパーク駅歩五分で。S席五千円、

A席四千円(全席指定・消費税込。無料託児サ

ビスあり(先着 千名、申込締切九月 日)。

六五七七・二三八一。

● 外山 舞演奏会「パリの屋根裏部屋」市岡中

学校出身のサクソフォニスト外山舞さん(前号

二十八頁で履歴紹介)が里帰り演奏会▽一回目

は八月三十日(日)十九時半～二十一時に神戸市

し〇七八・三九一・八〇八二)で。参加費 千五百

円。共演は茨城県出身のサクソフオニスト 塙

美里さん(みさと)と奈良県出身のピアノ西岡沙樹さん(さき)

。演奏曲目は①フアリヤ・スヘイン舞曲②J・

S・バツハ:無伴奏ナエロ組曲よりーほか▽二回

目は九月八日(日)十六時から東京都渋谷区道玄

坂一・二五・九のアクタスノナカアンナホ

ル(TEL〇三・五四五八・二五二二)で。入場

料三千円(学生千円)。共演は、塙美里さん(前出)

とピアノリスト島田彩乃さん。演奏曲目は①F・

デリリユー・ユーバーシヒト②P・トントレミッ

トサクソフオンのためのソナターほか。

●ねじやらしのシャンテ☆カフェ 懐かしい

歌にきいても若きも声を合わせる月例イベント。

毎月第四土曜十四時から港近隣センター(八幡

屋一・四・二〇)で。不定期にゲストを迎え、リ

クエスト中心に約一時間。新オリジナル歌集を

頒布中。参加費千円(税込)。八月は変則で二十

九日。問い合わせは「ねじやらし音楽事務所」

(弁天四・一一・二二二〇) ☎八五五八・六

八八、http://necocojyaras

i.j-jrmdo.com/または「ゆずりのはの

会(☎八五七一・六八四二)まで。

●弁天町ORC200生涯学習センター「オー

ク弁天寄席」旧 弁天町市民学習センター時代

の人気イベントの再開第十八回、通算第四八

回。八月二十八日(水)十九時〜二十時半に講堂

で。出演はレギュラーの笑福亭學光さん(徳島

県阿南市出身の落語家、笑福亭松鶴一門、鶴光

の弟(子)に加えて今回は旭堂南湖さん(兵庫県

宝塚市出身の講師、旭堂南(陵門)下、桂楽珍

さん(鹿児島県徳之島出身の落語家、桂文枝一門

桂文珍の弟(子)、暁光雄さん(宮崎県出身の三

味線漫才師)も。先着百二十名。当日五百円、前

売四百円。オーク弁天寄席の会と同センターが



→弁天町ORC200生涯学習センター「オー

ク弁天寄席」に出演する落語家 笑福亭學光さ

ん(レギュラー)①と講師 旭堂南湖さん②

←第二四八回「オーク弁天寄席」に出演する落

語家・桂楽珍さん①と漫才師 暁光雄さん②



主催、ORC200店舗会が協賛、ラジオ大阪

が協力。☎八五七〇・一四二〇。

●ガラスアート・ナカイグループ 金元奈保美

& 飛垣美香 ガラスアート二人展 ガラスアー

トは京都手描き友禅手糸目技法を応用した新

しい芸術。二原色を基本に、竹串を使い、色遊

びの感覚で、ガラス特有の透明感・幻想感を楽し

める。「地域に密着した文化を育てたい」と活動

するガラスアート・ナカイグループの教室主宰

者二人が自作を展示。鑑賞無料。九月十九〜二

十一日、心斎橋SMBコンシューマーファイ

ナンス(株)お客様サービスプラザ(中央区心斎橋

二丁目八・九 福穂ビル一階 地下鉄難波駅歩四

分)で。☎八五七六・二三四四(金元)磯路一丁目。

←「ガラスアート二人展」に出品する(右から)金元さんと飛垣さん(上)と、風庵「吉岡真紀子作陶展」の展示品から珈琲カップなど(下)



●ぎやらりー&かふえ風庵「吉岡真紀子作陶展」シンプルな中にも味わいや温かみのあるうつわを目指して一点一点丁寧に」をモットー

に「陶工房 百舌鳥(堺市北区百舌鳥陵南町)丁六九五、☎〇九〇・五〇五四・八一〇五で作陶を続けてきた吉岡真紀子さんの作品を一堂に。皿、湯呑み、珈琲カップ、箸置き、一輪挿しなど。八月二十九日(土)まで好評展示中。「風庵」は南市岡三・二・一〇(繁栄商店街内)、☎四九八五・五九八二、九時半〜十八時開館(日曜定休)。

●シネ・ヌーヴォ『黒木和雄監督 戦争レクイエム』戦後七十年企画。自由を愛し、戦争を

誰よりも憎んだ故・黒木和雄監督が遺した痛切な戦争の記憶を辿る。長崎の原爆投下までの

市井の人々の二十四時間を描いた『TOMORROW 明日』(八八年)、終戦時十五歳だった同

監督の痛切な体験を元にした群像劇『美しい夏

キリシマ』(〇二年)、井上ひさしの戯曲を原作

に広島原爆の悲劇と再生を描いた『父と暮らせ

ば』(〇四年)、特攻男性をめぐる出会いと別れ

を情感豊かに描いた『紙屋悦子の青春』(〇六年)

の四本を八月十五日(土)〜二十八日(金)に上映。

当日一般千四百円。上映スケジュールなど詳細

は同館(西区九条二・一〇・一四)地下鉄中央線



→広島原爆の悲劇と再生を描いた『父と暮らせば』(上)と、特攻男性をめぐる出会いと別れを情感豊かに描いた『紙屋悦子の青春』(下)

九条駅⑥出口歩三分、阪神なんば線九条駅②出口歩三分、☎八五八二・一四二六へ。

読者プレゼント

※いずれもハガキに今月号の感想とプレゼント名を書いて十日必着で港新聞へ。

●関西フィル「いずみホルシリーズ第二十八

回」(みなとカルチャー)招待券をヘア一組に。

●オーク弁天寄席(みなとカルチャー)招待券をヘア一組に。

●藤かほり「盲導犬チャリティ」(三能ガイド)招待券をヘア二組に。

ひとくち伝言板

●可哀想な捨て猫に愛を 海岸通で八月初め発見。生後一カ月半の黒三匹 雑 匹。最期まで世話できる方。☎〇九〇・五八九八・二九四五松田。



ひとくちPR

(二行)税込二〇〇〇円、写真は別料金相談

● **そろばん学習で子どもが変わる！** 右脳活性化直される効用。そろばん教育は情緒を安定させ、学習意欲を高めます。「生きる力」「学ぶ力」も強めよう。森友総合教室 **検定** (分四 一三三七 三津神社西側 五五七 一六八七七)。

● **放課後・春夏冬休みは学童保育へ** 入所児童募集。指導員が安全・健全・家族的に学びや遊びを指導。体験可。携帯〇九〇・五八九一・〇三三四(西原)か五五七一・六八四三あおぞら学童。● **石炭倉庫のレッスン** 吉津たかし先生の所作レッスン、志保先生の歌唱レッスン、あんがにおまろの朗読教室、河野明夫の三味線を習おう。一回 千円、波除六・五・一八、五五八 一・〇六八四 FAX六五八一・二六七〇。



→石炭倉庫の吉津たかし先生(上)と志保先生(下)

● **介護のことばお任せ** ①老いの相談②手続き代行③デイサービスは送迎付で入浴・昼食・カラオケなど④訪問介護は買物・掃除・洗濯・通院など手伝い。NPOみなと合同ケアセンター(南市岡二・六・一六、五五八二・四八八〇)。

● **あなたのふとんが生まれ変わる** 綿も羽毛も掛も敷も、熟練職人が心込めて仕立て替え。シングル掛(敷)ふとん一万円。ふとん館ひらのや(南市岡二・一・八 繁栄商店街東入口フリーダイヤル〇二〇・四二四九・五五)。

● **磯路ヒラノ教室** 大きい人も小さい人も楽しくレッスン。五五七四・三四三三東條和恵。

● **新しい作業所でお仕事しませんか** 障害者手帳を持ち一般企業で働くのが困難な方。喫茶又は軽作業。就労支援B型作業所相談支援事業所わたぼうし(分四 一・一八・一〇、五五七六・〇二〇〇、FAX六五七六・〇二〇三)。

● **ボクササイズでシェイプアップ** 女性も小中・高生も楽しく練習。月会費八千円(無期限十枚綴り券八千円)。入会金二万円を只今半額。練習日は月・水・金の十九時半～二十一時半。港ボクシングジムは三先一・二三・九。

クシングジムは三先一・二三・九。

←港ボクシングジムのトレーニング風景(三先一)と囲碁クラブの対局風景(港近隣センター)



● **囲碁クラブ** 毎月第一・四土曜の午後二～五時に港近隣センター(八幡屋一・四・二〇)会議室で。参加費二回五百円。家族的雰囲気。五五九〇・二二九八・八四四三瀬戸。

● **おしゃれ着いつばい** 神戸メーカー直送お出かけ着から普段着肌着まで。サイズ豊富。ブティック・ミニト(八幡屋一・四・八、入舟公園前、大阪信金横、十～十八時営業、日月定休)。

● **何でも書きます、まとめてます** 手紙・案内・報告・宣伝・司会などの文案。自分史・社史・団体史などの聞き書き。新聞・会報・書籍などの取材・編集。ホームページ作成・記帳代行など。五五七二・四八二六 港新聞・飯田編集事務所。

七二・四八二六 港新聞・飯田編集事務所。